

平成 26 年度

研究紀要

(第952号)

G 5 - 0 3

## 思いや意図をもって表現する児童を育てる

### 音楽づくりの学習指導

— 「まとまりのある音楽」をつくるための支援の工夫を通して—

小学校学習指導要領解説音楽編では、思いや意図をもって音楽をつくることの重要性が示されている。本研究室では、思いや意図をもって表現する児童を育てるために、昨年度の研究で明らかになった音楽づくりの3段階の学習過程に「めざす児童の姿」を設定した。そして「まとまりのある音楽」をつくるために、モデル演奏の提示などの「思いや意図をもつための支援」と聴き比べなどの「思いや意図を表出するための支援」の工夫を行った。その結果、自分の考えや願いを即興的に表現したり試行錯誤を重ねながら音楽の仕組みを生かして音楽をつくったり音楽用語などを用いて言葉と音楽で伝え合ったりして音楽をつくる児童の姿がみられた。

福岡市教育センター 音楽科研究室

**第Ⅰ章 研究の基本的な考え方**

1 主題について .....	音 - 1
(1) 主題設定の理由	
(2) 主題及び副主題の意味	
2 研究の目標 .....	音 - 3
3 研究の仮説 .....	音 - 3
4 研究の構想 .....	音 - 4
5 研究構想図 .....	音 - 5

**第Ⅱ章 指導の実際とその考察**

1 小学校第2学年	
題材「虫の声をつくってお話しよう」 .....	音 - 6
2 小学校第3学年	
題材「森のイメージから音楽をつくろう」 .....	音 - 12
3 小学校第4学年	
題材「川の誕生をイメージした音楽をつくろう」 .....	音 - 18
4 小学校第5学年	
題材「言葉のイメージから音楽をつくろう」 .....	音 - 24

**第Ⅲ章 研究のまとめ**

1 研究の成果 .....	音 - 30
2 研究の課題 .....	音 - 30
注釈・引用・参考文献 .....	音 - 31

## 第Ⅰ章 研究の基本的な考え方

### 1 主題について

#### (1) 主題設定の理由

ア 「新しいふくおか教育計画 後期実施計画」から

「新しいふくおか教育計画」では、その基本的な考えの一つである「たくましく生きる子どもの育成」の中で確かな学力の向上について「基礎的な知識および技能」「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に取り組む態度」を一人ひとりの児童に確実に育むことの重要性が示されている。そして、前期の取組の結果から、「学年が進むにつれて学習に対する好感・有用感や意欲が低下する」「知識・技能を活用して考える力（思考力・判断力・表現力）や、知識・技能の定着に課題がある」ことも明らかになっている。これらのことから、児童の意欲を高めながら、自発的・主体的な活動を促し、感動や達成感、有用感を実感させることや、学習の中で、身に付けた知識や技能を使って自らが思考・判断したことを表現することがこれからの教育に必要とされている。このことはまさに音楽科教育においても、音楽を聴いて思考・判断し、思いや意図をもって表現する力を育成する中で培うことができるものとする。本研究において思いや意図をもって表現する児童を育てるために、学習指導の在り方について追究していくことは、「新しいふくおか教育計画」で求められている方向性と合致しており、意義あるものとする。

イ 小学校学習指導要領解説音楽編から

学校教育は、知性と感性の調和のとれた人間の育成を目指している。学校における教育活動の中でも音楽科教育では特に感性の育成を担うことができると考える。小学校学習指導要領解説音楽編には、表現領域の音楽づくりの活動について、「音楽づくりは、児童が自らの感性や創造性を働かせながら自分にとって価値のある音や音楽をつくる活動である。」と述べられている。このことから、音楽づくりで育成する力は、価値高いものであると考えている。

音楽づくりでは、「音の面白さに気付いたりその響きや組合せを楽しんだりしながら、さまざまな発想をもって、音遊びや即興的な表現をすること」や「音を音楽に構成する過程を大切に、〔共通事項〕に示す音楽の仕組みを手掛かりにして、児童が思いや意図をもって音楽をつくるようにすること」の重要性が示されている。

自らの感性や創造性を働かせながら自分にとって価値ある音や音楽を追究していく音楽づくりは、答えが一つではない。音楽をつくる過程では、児童は音や音楽を聴き、思考・判断し、思いや意図をもって表現していく。つまり、主体的に思考・判断・表現していく過程で大切にしたいものが、児童がもつ思いや意図なのである。そこで学習指導の中で、教師が意図的で計画的な支援を行い、児童の思いや意図を連続・発展させることができる本研究は意義深いと考える。さらに、児童が友達とともに音楽を楽しみ、音楽の喜びを分かち合う学習の場を大事にすることは、生涯にわたって音楽を愛好するための素地となっていくものとする。

ウ 教師の音楽科学習指導の実態と児童の実態から

市内の小学校の教師と児童を対象に音楽の授業や音楽づくりの現状について調査を行った。その結果を表したものが次のグラフである。

回答数は、教師 94 人と児童 141 人である。（複数回答可）

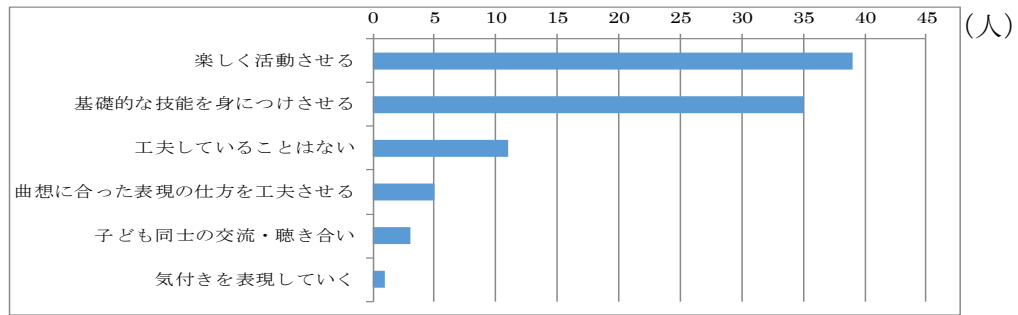


図-1 音楽を指導する上で力を入れていること（教師）

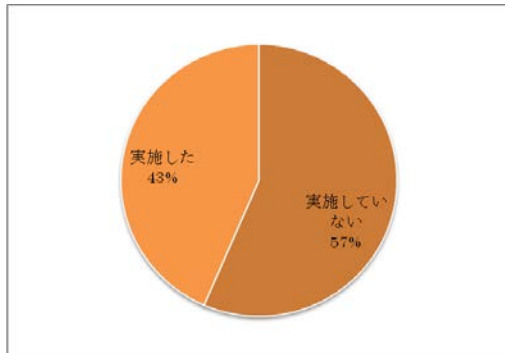


図-2 ねらいに沿った音楽づくりの授業が実施できているか（教師）※（1学期にない場合は昨年度も可）

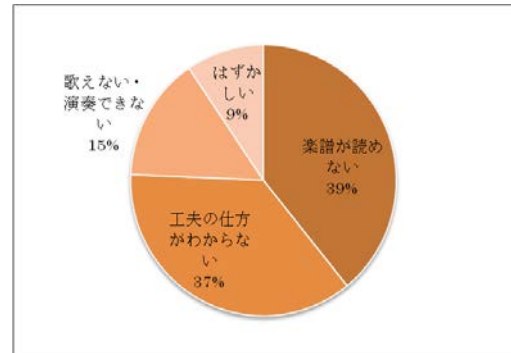


図-3 音楽の授業で困ったこと（児童）

これらの結果から、次のようなことが明らかになった。

- ・音楽の学習において、教師は楽しく活動させることへの意識は高いが、児童相互が交流したり聴き合ったりしながら創意工夫する活動は、十分にではないと思われること
- ・音楽の授業を進める上で、教師は、基礎的な技能を身につけさせることに重点をおく傾向があること
- ・音楽づくりの学習が充実していないと回答している教師が多数を占める状況にあること
- ・音楽の授業において、児童は技能面に困難さを感じている傾向が見られること

このような現状の背景には、教師が音楽づくりの学習をどのように進めてよいのかわからないために取り組むことができていなかったり、児童に思いや意図をもたせる手段を講じずに学習指導を進めたりしている実態があるのではないかと考える。

これらの現状を受けて、音楽づくりに取り組むことには、以下のような効果が期待できる。

- ・様々な発想をもって表現したり、互いの表現を聴き合ったりして試行錯誤しながら音楽をつくる学習は、音楽表現の技能面でつまずきを感じている児童も積極的に学習に参加できること
- ・音楽づくりの過程で「まとまりのある音楽」をつくる支援を明らかにすることで、教師は音楽づくりの手だてがわかり授業での取組が容易になる。また、児童は自分にとって価値のある音楽になるよう、思いや意図を連続・発展させながら主体的に学習に取り組むことができること

以上のことから、本年度は、「まとまりのある音楽」を明らかにし、「思いや意図をもつための支援」と「思いや意図を表出するための支援」の工夫を行い、思いや意図をもって表現する児童を育てる音楽づくりの学習指導の在り方を明らかにしようと考え、本主題を設定した。

## (2) 主題及び副主題の意味

### ア 主題について

#### (ア) 「思いや意図」とは

音や音楽を聴き取り感じ取ったことをもとにして、「こんな音を出してみたい」「こんな音楽にしたい」とわき上がる考えや願い、また、「〇〇な感じを表すために、△△しよう」のように聴き取り感じ取ったことをもとにした表現への見通しのある考えや願いのことである。

#### (イ) 「思いや意図をもって表現する児童」の姿とは

音楽づくりにおいて、「こんな音楽にしたいな」「〇〇な感じを表すために△△しよう」といった音楽に対する自分の考えや願いが実現するように、試行錯誤を重ねながら即興的に表現したり、音楽の仕組みを生かして音楽をつくったり、音楽用語などを用いて言葉と音楽で伝えたりしている児童の姿である。

### イ 副主題について

#### (ア) 「まとまりのある音楽」とは

「まとまりのある音楽」とは、音の面白さ、その響きや組合せを楽しみながら、即興的に表現したものをもとにして、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、音楽の始め方や終わり方を意識してつくった拍感のある8小節から16小節程度の長さの音楽とした。

#### (イ) 「『まとまりのある音楽』をつくるための支援の工夫」とは

児童が「こんな音楽にしたいな」「そのためにこんなことをしていこう」などの「思いをもつための支援」及び、もった思いを言葉と音楽で表現する「思いを表出するための支援」を、「つかむ」「あらわす」「たかめる」の全ての学習指導過程に位置付け、その内容や方法を明らかにしていくことである。

## 2 研究目標

「まとまりのある音楽」をつくるための支援の工夫を通して、思いや意図をもって表現する児童を育てる音楽づくりの学習指導の在り方を明らかにする。

## 3 研究仮説

音楽づくりの学習において、「つかむ」「あらわす」「たかめる」の3段階の学習指導過程において、つくる音楽を明らかにし、以下のような支援の工夫を行えば、思いや意図をもって表現する児童を育てることができるであろう。

- ・ 思いや意図をもつための支援の工夫
- ・ 思いや意図を表出するための支援の工夫

## 4 研究の構想

本研究室では、思いや意図をもって表現できる児童を育てるための研究構想を次のように考えた。

### (1) 3段階の学習指導過程におけるめざす児童の姿を設定する。

「つかむ」「あらわす」「たかめる」の3段階の学習指導過程に思いや意図をもって表現する児童の姿を設定する。

### (2) 学年の発達段階や学習の内容を考慮し、題材の場面設定を工夫する。

音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくることができるように、題材の場面設

定を工夫する。

低学年：主人公になる等，話の中に浸ることができるような場面設定の工夫

中学年：時の流れや場面の变化等が意識できるような場面設定の工夫

高学年：音楽の構成を意識でき，つくる音楽を見通すことができるような場面設定の工夫

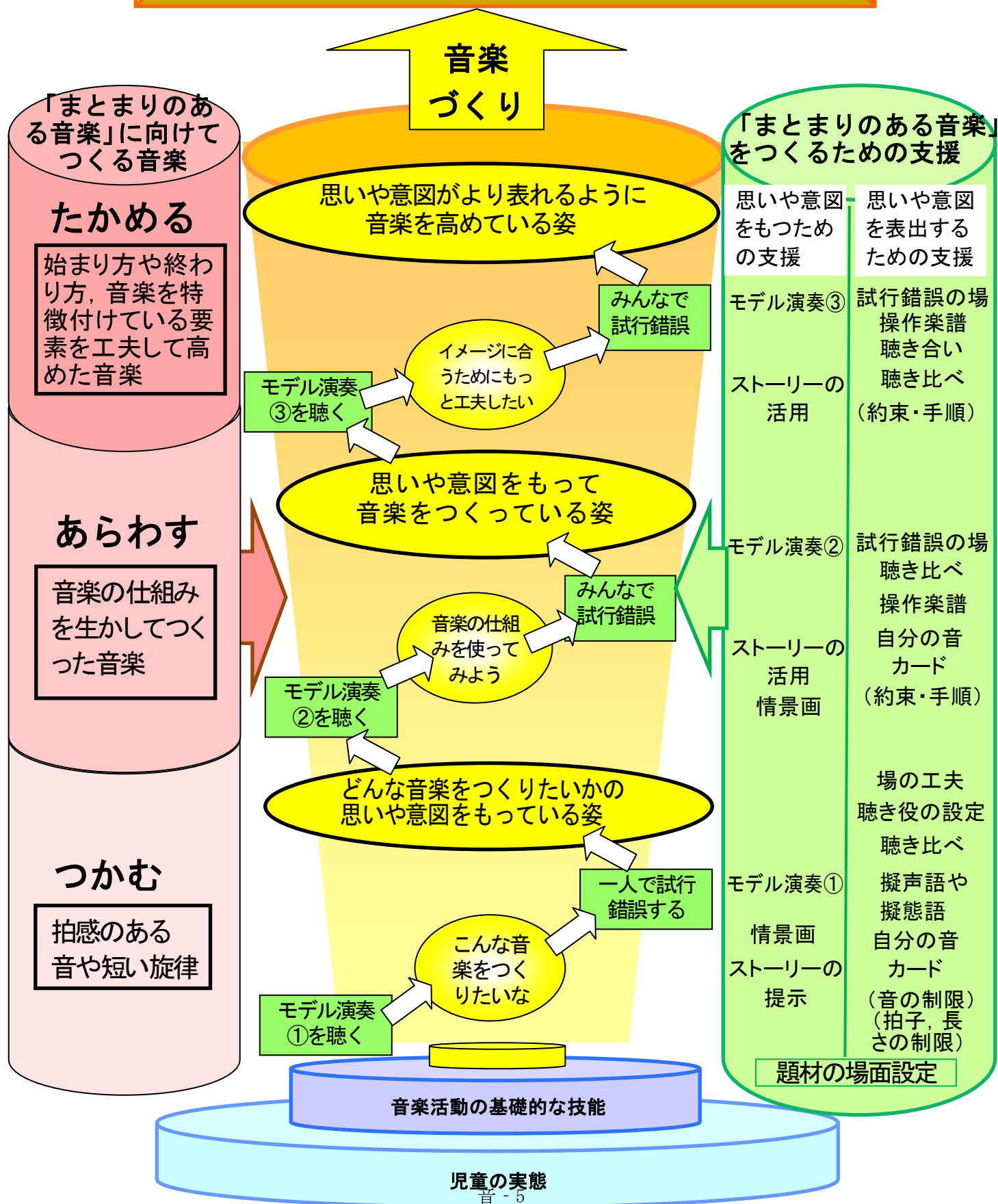
### (3) 各段階に位置付ける「まとまりのある音楽」にするための支援の工夫をする。

児童が「まとまりのある音楽」をつくることができるように，各段階で「つくる音楽」「約束・手順」「思いや意図をもつための支援」「思いや意図を表出するための支援」を設定し，その内容や方法を明らかにする。

表－１ めざす児童の姿と各段階に位置付ける「まとまりのある音楽」にするための支援の設定

	めざす姿	つくる音楽	約束・手順	思いや意図をもつための支援	思いや意図を表出するための支援
つかむ	どんな音楽をつくりたいかの思いをもっている ○ こんな音楽をつくりたいな。 ○ こんな音が聞こえてきそう。 ○ この音の方が合うよ。 ○ こんな音楽をつくるんだな。	拍感のある音や短い旋律	・音の制限 ・拍子や長さの制限	・モデル演奏①の提示 ・情景画の提示 ・ストーリーの提示	・一人で試行錯誤する場の設定 ・擬声語や擬態語で表現 ・自分の音カードの活用 ・聴き比べ
あらわす	思いや意図をもって音楽をつくらせている ○ 音楽の仕組みを使ってみよう。 ○ お話しているみたいにしたいから交代で演奏してみよう。 ○ ずっと続く感じにしたいからから同じフレーズを繰り返そう。 ○ 場面が変わってにぎやかになったから，友達のと音を重ねよう。	音楽の仕組みを生かしてつくった音楽	・グループ学習活動の約束 ・手順の提示	・モデル演奏②の提示 ・情景画の活用 ・ストーリーの活用	・グループで試行錯誤する場の設定 ・操作楽譜の活用 ・自分の音カードの活用 ・聴き役の設定 ・聴き比べ
たかめる	思いや意図がより表れるように音楽を高めている ○ イメージに合うためにもっと工夫したい。 ○ 仲良くなった感じにするために，もっと音を大きくして盛り上げよう。 ○ 静かな感じで終わりたいから，最後には音を小さくしていこう。 ○ 場面の变化をはっきり出すために強弱の違いをはっきり出そう。	音楽の始め方や終わり方，音楽を特徴付けている要素を工夫して高めた音楽	・グループ学習活動の約束	・モデル演奏③の提示 ・情景画の活用 ・ストーリーの活用	・グループで試行錯誤する場の設定 ・操作楽譜の活用 ・聴き比べ ・聴き合い

# 思いや意図をもって表現できる児童



## 第Ⅱ章 指導の実際とその考察

### 1 小学校第2学年

(1) 題材 虫の声をつくってお話しよう

(2) 教材 「虫の鳴き声」 「虫の声をつくろう」

(3) 題材の目標

- 虫の声に興味・関心をもち、音や音楽に表すことに進んで取り組もうとしている。
- 音の特徴や面白さに気付き、思いをもって簡単な音楽をつくる工夫をしている。
- 虫の声を表現し、音楽の仕組みを生かして虫の音楽をつくることができる。

(4) 題材について

本題材「虫の声をつくってお話しよう」は、虫の鳴き声のまねをする音遊びを通して、声や身の回りの音の面白さに気付かせ、音を音楽にしていくことを楽しみながら音楽の仕組みを生かして、虫たちがお話している音楽をつくることをねらいとしている。

そのため、児童に身近な虫の鳴き声を取り上げ、擬声語を使って音遊びを楽しみ、お話に合った音楽の仕組みを生かして簡単な音楽をつくることができるように場面設定の工夫をしている。

「つかむ段階」では、まず虫の鳴き声を聴いて、鳴き声のまねや鳴き声のリズムをつくり、音遊びを十分に楽しませる。その後、自分で奏でたい鳴き声になるような楽器を選びリズムをつくることで、鳴き声を楽器で表したいという思いをもたせる。その際、「まとまりのある音楽」となるように、拍を意識した4拍分のリズムをつくらせる。

「あらわす段階」では、反復、問いと答えなどの音楽の仕組みを使ったモデル演奏を聴かせて、音楽の仕組みが生み出すよさや面白さを感じ取らせ、自分の思うお話に合うように音楽の仕組みを生かしてお話している音楽へと構成させていく。

「たかめる段階」では、お話している様子がもっと表れるように、強弱や速度、音色、終わり方を工夫することを通して、音楽づくりのよさや面白さを味わわせるとともに最後につくった音楽を互いに聴き合えるように発表会を設定してそれぞれの表現のよさを認め合わせたい。

以上のように、それぞれの段階に思いをもたせたり、思いを表出させたりする活動を仕組むことで、思いをもって表現する児童を育てたいと考える。

(5) 本題材での「まとまりのある音楽」をつくるための支援

	つくる音楽	約束・手順	思いをもつための支援	思いを表出するための支援
つかむ	1小節程度の拍に合わせた虫の鳴き声	・楽器の制限 ・4分の4拍子	・拍にのった擬声語のモデル演奏①の提示 ・黒板いっぱいの情景画の提示	・擬声語の提示 ・拍に合わせた自分の音カードの提示
あらわす	反復や問いと答えなどの仕組みを生かしてつくった8小節程度の虫の鳴き声でお話している音楽	・学習活動の約束提示 ・手順提示	・反復、問いと答えの音楽の仕組みを使ったモデル演奏②の提示 ・お面の提示	・二人で試行錯誤できる場の設定 ・操作楽譜の活用 ・聴き合い
たかめる	音楽の終わり方や強弱、速度、音色を意識した全体にまとまりのある虫の鳴き声でお話している音楽	・学習活動の約束提示 ・手順提示	・強弱、速度、音色など音楽を特徴付けている要素を工夫したモデル演奏③の提示	・二人で試行錯誤できる場の設定 ・操作楽譜の活用 ・聴き合い


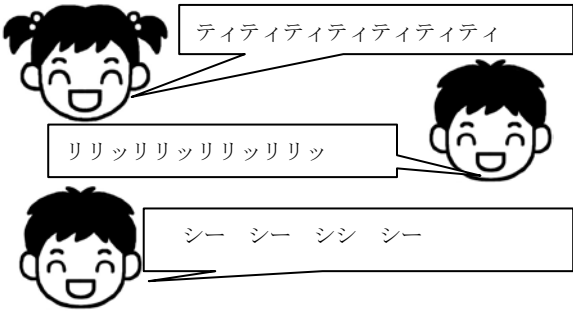

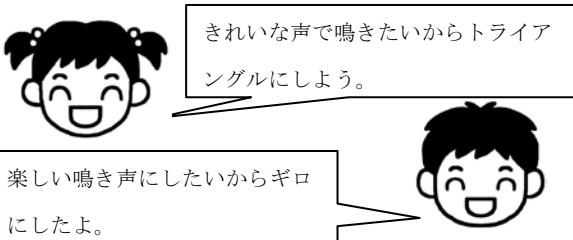


# (6) 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の 評価規準	虫の鳴き声や音の様々な特徴や面白さ、音楽の仕組みに興味・関心をもち、音遊びや簡単な音楽をつくる学習に進んで取り組んでいる。	虫の鳴き声や、お話の様子を表す音色や反復などを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音遊びや音を音楽にしていくための試行錯誤をし、どのように音楽をつくるかについて思いをもっている。	声や音の様々な特徴に気付いたり、音楽の仕組みを生かしたりするなどの基礎的な技能を身に付けて、音遊びや音を音楽にしていき、音楽を特徴付けている要素を生かして、お話の様子に合う音楽をつくっている。
学習活動 における 具体的評 価規準	① 虫の鳴き声の特徴や面白さに興味・関心をもち、音遊びに進んで取り組もうとしている。 ② 音楽の仕組みや音を音楽にしておくことに興味・関心をもち、思いをもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	① 楽器の音色を聴き取り、よさや面白さを感じ取りながら、虫の鳴き声リズムをどのようにつくるかについて思いや考えをもっている。 ② 音楽の仕組みを生かし、音を音楽にしていくための試行錯誤をして、お話の音楽をどのようにつくるかについて思いや考えをもっている。	① 音楽の仕組みを生かして、音を音楽にし、強弱や速度など音楽を特徴付けている要素を生かして、お話の様子に合ったまとまりのある音楽にすることができる。

# (7) 指導の実際と児童の反応

段階	時数	主な学習活動とまとまりのある音楽をつくるための支援	教師の発問 (T) や児童の反応 (C) ○と評価◆
つかむ	2	(ねらい) 虫の鳴き声を聴いて、鳴き声のまねや鳴き声をリズムで表した音遊びを通して、楽器で鳴き声のリズムをつくり、学習の見通しをもつ。	
（つくる音楽の見通しをもつ段階）	① 本時	<p>1. めあてをつかむ。</p> <p>虫の鳴き声でリズムをつくって、リズムあそびをしよう。</p> <p>【思いや意図をもつための支援①】 イメージをふくらませるための<b>情景写真と実際の虫の鳴き声の提示</b></p> <p>資料-1 草むらの情景写真</p> 	<p>たくさんの虫が鳴いてるね。</p> <p>虫たちのコンサートだ。</p> <p>○ 模造紙4枚分の大きな情景写真を提示し、間髪入れずに虫の鳴き声を聴かせたことで、一気に虫たちの世界へ入り込んでいる。</p> <p>C: リリ リリ リリ リリ って少し休みながら鳴いているよ。</p> <p>C: 本当にすずの音みたいにリンリンリンリンリーンって鳴いているね。</p> <p>C: ギーギーギーって鳴いている虫もいるね。</p> <p>C: ぼくには、ギリギリギリって聞こえたよ。</p> <p>C: ツーツーって鳴いているよ。</p>

	<p>2. 虫の鳴き声のまねをする。</p> <p>3. 虫の鳴き声でリズム遊びをする。</p> <div><p>【思いや意図をもつための支援②】</p><p>擬声語をもとに、即興的な表現で音遊びをするための拍にのった擬声語の<b>モデル演奏①</b>の提示</p></div> <p>(1) ルールを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 拍の流れにのること</li><li>○ 一人1小節（4拍分）をつくること</li></ul> <p>(2) 即興的なリズム遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一人で、二人で、交代して、 みんなであつないで、みんなまねっこして</li></ul> <p>(3) 自分の一番好きな鳴き声を自分の音カードに記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 拍にのると鳴き声ができなこと</li><li>○ みんなであつないだり交代したりまねっこしたりすると音楽になったこと</li><li>○ 次の時間は鳴き声を楽器で表すこと</li></ul> <p>資料-3 拍に合わせた擬声語（4拍分）</p>  <p>4. 学習を振り返り、次時学習の見通しをもつ。</p>	<p>○ 虫の鳴き声の録音を提示したことで聞こえた様々な鳴き声を擬声語にして即興的に表現した。</p> <p>T：聞こえた虫の鳴き声をまねしてごらん。（指示）</p> <div></div> <p>○ モデル演奏を提示することで、擬声語を使って拍にのった即興的なリズム遊びができた。</p> <p>T：鳴き声を拍に合わせてみるよ。（指示）</p> <p>C：リン リン リリ リン</p> <p>資料-2 即興的な表現で音遊びする様子</p>  <p>資料-4 拍に合わせてつくった自分の音カード</p> <div><p>♪ つくったなきごえを書きましょう。</p><table><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>チリ</td><td>チリ</td><td>チリ</td><td>チリ</td></tr></table><p>♪ つくったなきごえを書きましょう。</p><table><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>チー</td><td>チッ</td><td>チー</td><td>チ</td></tr></table></div> <p>◆ア-① （観察・プリントの内容分析）</p> <p>○ 音を実際にならして音色を確かめながら、自分の表したい虫に合う楽器を選んだ。</p> <p>T：どんな鳴き声で鳴きたいですか。 そのために どんな音のする楽器で鳴いたらいいかな。（発問）</p> <div></div> <p>◆イー①（演奏観察・プリントの内容分析）</p>	1	2	3	4	チリ	チリ	チリ	チリ	1	2	3	4	チー	チッ	チー	チ
1	2	3	4															
チリ	チリ	チリ	チリ															
1	2	3	4															
チー	チッ	チー	チ															
①	<p>1. 自分の表したい虫の鳴き声に合う楽器を選ぶ。</p> <div><p>【思いや意図を表出するための支援①】</p><p>鳴き声に合う楽器を鳴らして選択できるように楽器を自由に<b>試せる場の設定</b></p></div> <div><p>【思いや意図を表出するための支援②】</p><p>なりきって音遊びができるようにするための<b>お面の提示</b></p></div>																	

	<div data-bbox="300 165 865 322" data-label="Text"> <p>【音づくりのための約束】 虫の音に合う<b>楽器を四つ選択</b>しておき、この四つから選ばせるようにする。</p> </div> <div data-bbox="325 349 587 380" data-label="Caption"> <p>資料－6 使用した楽器</p> </div> <div data-bbox="316 403 865 537" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="309 586 778 616" data-label="Text"> <p>(トライアングル・すず・マラカス・ギロ)</p> </div> <div data-bbox="300 680 874 949" data-label="List-Group"> <p>2. 簡単なリズムを即興的につくり、音遊びをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1小節の拍ののったリズムを即興的につくる。</li> <li>(2) リズムを即興的に表現しながら、友達と音遊びをする。 ・音をつないで ・音をまねして ・交代で</li> </ol> </div>	<div data-bbox="906 161 1439 192" data-label="Caption"> <p>資料－5 音を確かめながらリズムをつくる様子</p> </div> <div data-bbox="912 215 1500 931" data-label="Complex-Block"> <div data-bbox="938 215 1493 322" data-label="Text"> <p>かわいい鳴き声にしたいな。どの楽器がいいかな……。ちょっと鳴らしてみよう。</p> </div> <div data-bbox="912 367 1181 725" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1200 367 1481 725" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1181 725 1493 842" data-label="Text"> <p>すずの音がよさそう。リズムは……。</p> </div> <div data-bbox="951 860 1442 931" data-label="Text"> <p>チンチンチリリリリリにしようかな。</p> </div> </div>
<div data-bbox="150 967 209 1142" data-label="Text"> <p>あらわす</p> </div> <div data-bbox="150 1218 185 1751" data-label="Text"> <p>(音の仕組みを生かして音楽をつくる段階)</p> </div>	<div data-bbox="220 967 248 1043" data-label="Text"> <p>1</p> </div> <div data-bbox="309 967 1398 999" data-label="Text"> <p>(ねらい) 反復、問いと答えなどの音楽の仕組みを生かして、虫たちがお話している音楽をつくる。</p> </div> <div data-bbox="220 1016 248 1048" data-label="Text"> <p>①</p> </div> <div data-bbox="300 1016 865 1182" data-label="Text"> <p>1. モデル演奏の聴き取り感じ取りをする。</p> <div data-bbox="309 1061 855 1173" data-label="Text"> <p>【思いや意図をもつための支援③】 反復や問いと答えのある<b>モデル演奏②の提示</b></p> </div> </div> <div data-bbox="300 1254 855 1429" data-label="List-Group"> <p>2. お話に合う音楽をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 音楽をつくるための手順や約束を知る。</li> <li>(2) お話をつくり、音楽をつくる。</li> <li>(3) お話に合う音楽になるように音楽をつくる。</li> </ol> </div> <div data-bbox="300 1442 865 1563" data-label="Text"> <div data-bbox="309 1442 855 1563" data-label="Text"> <p>【音楽づくりの約束】 音楽をつくるための<b>手順や約束の提示</b></p> </div> </div> <div data-bbox="300 1585 829 1617" data-label="Caption"> <p>資料－7 音楽をつくるための手順や約束の提示</p> </div> <div data-bbox="300 1617 865 2033" data-label="Complex-Block"> <div data-bbox="309 1617 855 2033" data-label="Text"> <p><b>お話のし方(音がづくり)のルール</b></p> <p>(1) 2人でどんなお話をするかきめる。</p> <p>(2) お話に合うつなぎ方やかさね方を考える。</p> <p><b>まねこ</b> …… <b>たのし</b> <b>かた</b> <b>なかく</b> <b>いる</b></p> <p><b>こうたい</b> …… <b>おへんじ</b> <b>あいさつ</b> <b>お話し</b> <b>いる</b></p> <p><b>いっしょ</b> …… <b>にぎやか</b> <b>もり</b> <b>あが</b> <b>いる</b> <b>コンサート</b></p> <p>(3) えんそうしてみる。★はく(1234)に合わせるよ。</p> </div> </div>	<div data-bbox="906 1016 1500 1142" data-label="List-Group"> <p>○ 反復や問いと答えのあるモデル演奏を聴いて、感じたことを話し合い、音楽の仕組みを手掛かりにすると虫のお話の様子が表せることに気付いた。</p> </div> <div data-bbox="906 1160 1500 1191" data-label="Text"> <p>T: 曲を聴いてどんな様子が思い浮かびましたか(発問)</p> </div> <div data-bbox="906 1209 1088 1240" data-label="Text"> <p>反復 (まねっこ)</p> </div> <div data-bbox="912 1254 1315 1339" data-label="Text"> <p>楽しそうだったよ。真似し合って仲良く遊んでいるみたい。</p> </div> <div data-bbox="1327 1200 1487 1335" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="906 1348 1165 1379" data-label="Text"> <p>問いと答え (こうたい)</p> </div> <div data-bbox="912 1388 1299 1473" data-label="Text"> <p>お返事していたよ。挨拶しているみたい。二人でお話しているみたいだね。</p> </div> <div data-bbox="1327 1352 1500 1487" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="906 1491 1165 1523" data-label="Text"> <p>音の重なり (いっしょ)</p> </div> <div data-bbox="912 1536 1299 1621" data-label="Text"> <p>にぎやかで盛り上がっているね。コンサートみたいだったよ。</p> </div> <div data-bbox="1327 1491 1487 1626" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="906 1635 1500 1715" data-label="List-Group"> <p>○ 思いに合う音楽の仕組みを使い、二人でうまく表せるかと試行錯誤してつくる姿が見られた。</p> </div> <div data-bbox="906 1729 1500 1760" data-label="Text"> <p>T: (つくり方の説明後) お話に合うように音楽をつく</p> </div> <div data-bbox="906 1774 1500 1805" data-label="Text"> <p>資料－8 音楽をつくる様子 りましょう。(指示)</p> </div> <div data-bbox="906 1814 1200 2033" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1219 1827 1487 2002" data-label="Text"> <p>いっしょに遊ぼうと言っているお話にしたいから、まねっここうたいをつかってみよう。</p> </div>



	<div data-bbox="300 159 874 481"> </div> <div data-bbox="300 492 874 600"> <p>【思いや意図を表出するための支援③】 二人組で試行錯誤して音楽をつくる場の設定</p> </div> <div data-bbox="300 611 874 768"> <p>【思いや意図を表出するための支援④】 つくったお話に合う音楽になるように可視化できる操作楽譜の活用</p> </div> <div data-bbox="300 779 874 902"> <p>3. つくった音楽を聴き合う。 ○ お話とそのためにどうしたかを発表して二人でつくった音楽を全体に発表する。</p> </div>	<div data-bbox="917 159 1189 324"> <p>楽しいお話をしていたいから、こうたいといっしょをつかってみよう。</p> </div> <div data-bbox="1204 159 1492 380"> </div> <div data-bbox="917 347 1492 425"> <p>◆アー② ◆イー② (観察・学習プリントの記述内容の分析)</p> </div> <div data-bbox="917 436 1492 481"> <p>資料－9 試行錯誤してつくった音楽の記録</p> </div> <div data-bbox="917 481 1492 896"> </div>
<p>た か め る  (イメージに合う音楽につくり上げる段階)</p>	<p>1 (ねらい) 虫たちのお話している様子が、より表れるように工夫して音楽をつくる。</p> <p>①</p> <div data-bbox="300 963 874 1164"> <p>1. モデル演奏の聴き取り感じ取りをする。</p> <p>【思いや意図をもつための支援④】 思いがより表れるように強弱や速度に変化があり、終わり方を工夫したモデル演奏③の提示</p> </div> <div data-bbox="300 1198 874 1288"> <p>2. お話の様子がより表れるように、つくった音楽に工夫を加えて音楽をたかめる。</p> </div> <div data-bbox="300 1299 874 1388"> <p>【思いや意図を表出するための支援⑤】 二人組で試行錯誤して音楽をたかめる場の設定</p> </div> <div data-bbox="300 1411 874 1512"> <p>【思いや意図を表出するための支援⑥】 活動や音楽を可視化するための操作楽譜の活用</p> </div> <div data-bbox="300 1534 874 1579"> <p>3. つくった音楽を聴き合う。</p> </div> <div data-bbox="300 1579 874 1680"> <p>【思いや意図を表出するための支援⑦】 音楽のよさや面白さを認め合う聴き合い</p> </div> <div data-bbox="300 1680 874 1713"> <p>資料－10 たかめた音楽を演奏する様子</p> </div> <div data-bbox="327 1713 813 2038"> </div>	<div data-bbox="917 963 1492 1142"> <p>○ 音色、強弱や速度に変化のあるモデル演奏を聴き、音楽を特徴付けている要素を工夫することで様子や気持ちを表せることに気付いていた。 T: 曲を聴いてどんな様子が思い浮かびましたか(発問)</p> </div> <div data-bbox="917 1153 1492 1254"> <p>強弱: (強) だんだん元気になってきた。 (弱) だんだん遠くにいったよ。</p> </div> <div data-bbox="917 1265 1492 1366"> <p>速度: (速) 急いでいるみたいだね。 (遅) 眠くなってきた。疲れているね。</p> </div> <div data-bbox="917 1377 1492 1478"> <p>音色: 響かせるようにしたら、きれいで楽しい感じになったよ。</p> </div> <div data-bbox="917 1489 1492 1579"> <p>最後に一回音を一緒に鳴らしても、音ののびしても、終わった感じがするね。</p> </div> <div data-bbox="917 1579 1492 1624"> <p>○ 思いに合うように要素を工夫する姿が見られた。</p> </div> <div data-bbox="917 1635 1492 1668"> <p>資料－11 表現の工夫を加えた学習シート</p> </div> <div data-bbox="917 1668 1492 1993"> </div> <div data-bbox="917 2004 1492 2049"> <p>◆ウー① (演奏観察・学習プリントへの書き込み分析)</p> </div>

## (8) 考察

### ア 題材の場面設定の工夫

児童にとって親しみ深い「虫」を題材として取り上げ、虫の鳴き声を使って虫になりきってお話をする音楽づくりを行った。身近な虫を取り上げたことで、虫の世界観に浸りながら最後まで思いをもって楽しく学習する様子が見られた。また題材名を「虫の声をつくってお話しよう」と設定したことで、お話するために音楽の仕組みである反復や問いと答えを生かして音楽づくりをしたいという思いをもたせることができた。なりきってできる活動を取り入れた題材にしたことは、音楽づくりの意欲や見通しをもつことができ、自然に音楽の仕組みを生かしながら思いをもって表現する姿につながったことにより、大変有効であると考ええる。

### イ 「まとまりのある音楽」にするための支援

#### (ア) つかむ段階

まず、大きな情景画を提示すると同時に実際の虫の鳴き声を聴かせたことで、すぐに虫の鳴き声のまねをして、虫の世界観に浸る姿が見られた。拍にのった1小節の擬声語のモデル演奏を聴かせたことで、自分もいろいろなリズムで表現したいという思いをもって即興的に様々に試している姿が見られた。また、楽器を選ぶときには聴き取り感じ取ったことを生かして「楽しい鳴き声にしたいから、この楽器を使ってみよう」というような思いをもたせることができた。モデル演奏は発達段階から考えて、必ず教師が実演してみせるようにした。思いの表出では、擬声語を使ったことで鳴き声から思いにそった音色を追求したり、いろいろなリズムを試してみたりする姿があり、一人でつくる場の設定が有効だった。

#### (イ) あらわす段階

反復や問いと答えのあるモデル演奏の提示をして、「どんな様子が思い浮かびましたか」「どこからそう思ったの」と発問することで、それぞれの音楽の仕組みを使ってお話の様子が表せそうだという思いをもたせることができた。また、ストーリーは二人で表す音楽のよりどころとなり、音楽をつくるときの根拠となった。学習プリントの「交代だけでなく、まねっこも入れると思った感じになった」という記述から、付箋を貼り替えて使う操作楽譜は、自分の思いに合うように音楽の仕組みをいろいろ試すことができたことにより有効であるといえる。

#### (ウ) たかめる段階

思いをもつための強弱や終わり方を工夫したモデル演奏は「(弱→強)元気がなった」感じがするから、ぼくたちは仲よくなった感じにするために、「強(けんか)→弱(仲よし)」で表そうという思いをもつことができた。二人で表現する場では、どのくらい強くするか、どんな音色にするか意見を述べるなど、言葉や音楽で何度も試行錯誤して思いを表現しようとしていた。このことから思いをもつ支援と表出する支援を繰り返すことが音楽づくりには大切だといえる。

### ウ 題材を通しての児童の変容

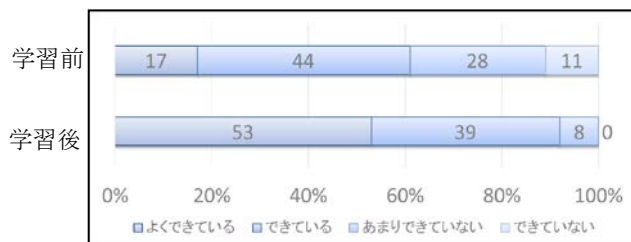


図-4 意識の変容

(思いや意図をもって音楽づくりに取り組んでいますか)

音楽づくりの実施後には90%以上が思いをもつて音楽づくりをしているということが分かる。このことから漠然と音楽をつくるのではなく、思いをもって表出するという児童の学習意識が連続・発展したことがうかがえる。

これらの支援は、思いや意図をもって表現する児童を育てる上で有効であると考えられる。

## 1. 小学校第3学年

(1) 題材 森のイメージから音楽をつくろう

(2) 教材 「森の水車」

(3) 題材の目標

- 森の音楽に興味関心をもち、森の様子を意欲的に音や音楽に表そうとしている。
- 「森の中を探検していて聞こえる音楽」を、反復、変化などの音楽の仕組みを生かしてどのようにつくるかについて、思いや意図をもつことができる。
- 森の様子を即興的に楽器で表現したり、反復、変化などの音楽の仕組みを生かしたりして、森のイメージに合った音楽をつくることができる。

(4) 題材について

本題材「森のイメージから音楽をつくろう」では、森の情景をイメージしながら、森の様子や森にいるものを表す音や短い旋律で即興的に表現することを楽しみ、反復、変化などの音楽の仕組みを生かしてまとまりのある森の音楽をつくることをねらいとしている。

「つかむ段階」では、情景画や森の様子や森にいるものを表す音色から、音や短い旋律で即興的に表現させることで、森のイメージから音楽をつくろうという思いをもたせる。

「あらわす段階」では、即興につくった音を、どのように構成していくかについての思いや意図をもたせるために、モデル演奏を聴かせ、反復、変化などの音楽の仕組みが生み出すよさや面白さを感じ取らせる。そして、「自分の音カード」を操作させながら、反復や変化などの音楽の仕組みを生かして「森の中を探検していて聞こえる音楽」へと構成させていく。

「たかめる段階」では、自分たちがつくりたい音楽になるように、森の中の三つの場面を想像しながら、表現の仕方や音楽の始め方や終わり方を工夫させ、つくった音楽を互いに聴き合い、よさを認め合う場をもつ。

そのため、「あらわす段階」では、「森を探検していて聞こえる音楽」というテーマを設定することで、即興的に表現した音や短い旋律をどのように入れていけば音楽ができるだろうという課題意識をもつことができると考える。児童は音を音楽に構成する過程の中で、ずっと繰り返したり、時々入れたり、一回だけ入れたりして、音楽の仕組みを生かすことができるだろう。さらに、もっと「森を探検していて聞こえる音楽」になるように、音楽の終わり方や、三つの場面の強弱等を工夫し、「まとまりのある音楽」をつくることができると期待し、題材の場面設定を工夫している。

以上のように思いや意図をもたせたり表出させたりする活動を仕組むことで、思いや意図をもって表現する児童を育てたいと考える。



(5) 本題材での「まとまりのある音楽」をつくるための支援

	つくる音楽	約束・手順	思いや意図をもつための支援	思いや意図を表出するための支援
つかむ	森の様子を即興的に表現した2小節程度の音や短い旋律	・音の制限 ・4分の4拍子	・黒板いっぱいの森の情景画と挿絵の提示 ・音や短い旋律のモデル演奏①の提示	・擬声語、擬態語で表現 ・自分の音カードの活用
あらわす	反復や変化などの音楽の仕組みを生かしてつくった16小節程度の森の音楽	・グループ学習活動の約束 ・手順の提示	・「森を探検していて聞こえる音楽」という場面設定 ・反復、変化の音楽の仕組みを生かしたモデル演奏②の提示	・グループで試行錯誤する場の設定 ・自分の音カードの活用 ・操作楽譜の活用 ・聴き合い活動①
たかめる	終わり方、強弱などを意識した全体にまとまりのある森の音楽	・グループ学習活動の約束	・「森の入り口」、「森の中」、「森の出口」の三つの場面設定	・グループで試行錯誤する場の設定 ・操作楽譜の活用 ・聴き合い活動②

(6) 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能
題材の 評価規準	森のイメージを手がかりに音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成することに興味・関心を持ち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に取り組んでいる。	森の様子を表す音色や反復、変化を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、即興的な表現や音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	いろいろな音を組み合わせたり、反復、変化などの音楽の仕組みを生かしたりするなどの基礎的な技能を身に付け、森のイメージに合った、まとまりのある音楽をつくっている。
学習活動 における 具体的評 価規準	① 森の中から聴こえる音の響きやその組み合わせに興味・関心を持ち、即興的な表現に進んで取り組もうとしている。 ② 反復、変化などの音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心を持ち、思いや意図をもって森の音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	① 楽器の音色や反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、思いや意図を持ち、森の様子を即興的に楽器で表現している。 ② 音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成するための試行錯誤をし、自分たちの森の音楽をどのようにつくるかについて思いや意図をもっている。	① 反復、変化などの音楽の仕組みを生かし、森のイメージに合った音楽をつくることができる。

(7) 指導の実際と児童の反応


段階	時数	主な学習活動とまとまりのある音楽をつくるための支援	児童の実際○と評価◆
つかむ (つくる音楽の見通しをもつ段階)	2	<p>(ねらい) 森の様子や森にいるものなどについて話し合ったり、それらを音や短い旋律で即興的につくったりして、学習の見通しをもつ。</p> <p>① 1. 情景画や挿絵や参考曲の音色をもとに、森の様子や森にいるものについて話し合う。  (1) どんな森の様子や森にいるものを想像したかについて話し合う。  (2) 森の様子や森にいるものの音を擬声語や擬態語で表す。</p> <p>【思いや意図をもつための支援①】  つくりたい音楽のイメージをふくらませるための黒板一面の森の情景画、挿絵の提示</p> <p>資料－12 森の情景画、挿絵</p>  <p>【思いや意図を表出するための支援①】  言葉をリズムにのせて即興的に表現するための擬声語や擬態語での表現</p> <p>【思いや意図をもつための支援②】  森の様子と擬声語、擬態語とを結びつけ、即興的に表現できるためのモデル演奏①の提示</p> <p>資料－13 小川の流れモデル演奏①</p>  <p>2. 楽器や自然音で、森の様子や森にいるものを表す音や短い旋律を即興的に表現する。</p>	<p>○ 情景画から静かな森を想像しながら、森の様子や森にいるもののどんな音が聞こえてくるか発表している。</p> <p>T:ここは、森の中です。どんな音が聞こえるかな。  C:かっこうの鳴き声が聞こえます。  T:どんな風に鳴いているかな。  C:かっこうが、「カッコー」と鳴いているよ。  C:小川が「サラサラ」と流れているよ。</p> <p>(森の様子)  小川…さらさら、ちょろちょろ  風…ひゅー、ざわざわ 水のしずく…ポタンポタン  (森にいるもの)  野ウサギ…びょんびょん  小鳥…ピピピ ふくろう…ホーホー  カッコー…カッコー  リス…トコトコ ようせい…キラキラキラ</p> <p>○ 擬声語や擬態語をもとに、音や短い旋律を即興的に表現している。</p> <p>T:鉄琴で小川を表してみたよ。どんな感じがしましたか。(モデル演奏)  C:「さらさら」と静かに流れている感じ。高い音を静かに鳴らしていたから。  T:森の中を静かに流れている小川を表すために、高い音をつかって表したよ。</p> <p>◆アー①(様子の観察・発言)</p>



	<p>① 1. グループ内で、自分の表したいものを決め、森の中からきこえる音や短い旋律を即興的に表現する。</p> <div data-bbox="272 219 858 338" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【まとまりのある音楽に向けた約束】 つくる音楽が音楽としてもまとまりをもつための音の制限（拍子、音階、楽器）</p> </div> <p>拍子：4分の4拍子 楽器：鉄琴、木琴、（キーボード）、リコーダー、トランパングル、ウッドブロック、クラベス グループ：1グループ4～5人の6グループ</p> <div data-bbox="272 663 850 790" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思いや意図を表出するための支援②】 即興的に表現した音や短い旋律を次時の音楽づくりに生かすための「自分の音カード」の活用</p> </div> <p>2. グループ内でつくった音を互いに聴き合う。</p> <p>3. 次時は音を組み合わせる音楽をつくるという学習の見通しをもつ。</p>	<p>資料－14 思いや意図をもって即興的に表現している様子①</p> <div data-bbox="895 237 1254 331" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C：かっこうが、仲間に話しかけている様子を、リコーダーで表したいな。</p> </div> <div data-bbox="1254 203 1455 338" data-label="Image"> </div> <p>○ 4拍子で2小節分の音や短い音を何度も試してつくっていた。</p> <p>○ 鉄琴、木琴、（キーボード）、リコーダーは、「ド・レ・ファ・ソ・ラ」の音で思いや意図にそったリズムや音階をつくっていた。</p> <p>資料－15 思いや意図をもって即興的に表現している様子②</p> <div data-bbox="895 618 1254 712" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C：かっこうが、仲間に話しかけているように、「ソ・ファーソ・ファー」と表してみよう。</p> </div> <div data-bbox="1254 584 1455 719" data-label="Image"> </div> <p>◆イー①（演奏の観察・自分の音カード）</p> <p>○ 次の時間に、自分がつくった音をグループで使ったり、修正したりするために、自分なりに分かるような階名や擬音語、擬声語をつかって、カードに書いている。</p> <p>資料－16 自分の音カード</p> <div data-bbox="938 920 1150 1077" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1190 920 1350 1115" data-label="Image"> </div>
<p>あらわす（音楽の仕組みを生かして音楽をつくる段階）</p>	<p>1 ① 本時</p> <p>（ねらい）反復、変化などの音楽の仕組みを生かし、森を探検して聞こえる音楽をつくる。</p> <p>1. 前時の学習を振り返り、めあてをつかむ。</p> <p>○ 森の中から聞こえる音や短い旋律を即興につくったこと</p> <div data-bbox="272 1238 866 1346" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて つくった音を組み合わせ、「森の中をたんけんして聞こえる音楽」をつくろう</p> </div> <div data-bbox="272 1357 866 1503" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思いや意図をもつための支援③】 反復、変化などの音楽の仕組みを生かして音楽に構成するための「森の中を探検して聞こえる音楽」という場面設定</p> </div> <p>2. 森の中を探検して見えたり聞こえたりするものの音楽づくりについて話し合う。</p> <p>○ くり返し聞こえるものは、音や短い旋律をくり返し続けていけば表現できること</p> <p>○ 時々聞こえるものは、音や短い旋律を時々入れていけば表現できること</p> <div data-bbox="272 1682 866 1794" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思いや意図をもつための支援④】 森の様子と、反復や変化などの音楽の仕組みを生かした音楽を結びつけるためのモデル演奏②の提示</p> </div> <p>資料－18 情景画とモデル演奏②の一部</p> <div data-bbox="288 1816 850 2007" data-label="Image"> </div>	<div data-bbox="895 1178 1430 1279" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>C：この前の時間、ふくろうが暗い森の中で「ホーホー」と森の仲間に鳴いている感じを、リコーダーで表したよ。</p> </div> <p>資料－17 テーマの設定</p> <div data-bbox="887 1368 1182 1615" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1206 1301 1445 1603" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T：前の時間につくった音をつかって、森の入り口から、出口まで探検して聞こえる音楽をつくるよ。（指示）</p> <p>C：今日は、森の中を探検して聞こえる音楽をつくるんだな。</p> </div> <p>○ モデル演奏の提示によりつくる音楽の全体像をとらえたり、音と場面の様子がつながっていることに気付いたりして、どのように音楽をつくるか、思いや意図をもつことができた。</p> <div data-bbox="895 1783 1445 2007" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T：（モデル演奏）どうやって音を入れていたかな。（発問）</p> <p>C：小川はずっと続けて入れていました。</p> <p>C：かっこうやリスは時々音を入れていたよ。</p> <p>C：カッコウが「いっしょに遊ぼう」と言って、リスが「うん。遊ぼう」と答えて、いっしょに遊んでいる感じを表したよ。</p> </div>



	<div data-bbox="268 152 858 331"> <p>カッコウ</p> <p>リス</p> <p>小川</p>  </div> <div data-bbox="292 353 858 465"> <p>【音楽づくりの約束】</p> <p>グループでひとつのまとまりのある音楽をつくるための手順や約束の提示</p> </div> <div data-bbox="443 477 699 504"> <p>資料－19 約束と手順</p> </div> <div data-bbox="276 504 874 712"> <div data-bbox="276 504 555 672"> <p>音楽をつくろう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の音カードを入れながら森の様子を話し合う。</li> <li>2. ためししながら、音を組み合わせる。</li> </ol> </div> <div data-bbox="563 504 874 712"> <p>やくそく</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はくの流れにのってつくろう。</li> <li>2. 友だちがこんな風にやってみてみたいと言ったら1回やってみる。</li> <li>3. 自分の音や音の入れ方は、やりながらかえてよい。</li> </ol> </div> </div> <div data-bbox="276 734 874 1003"> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 森の中から聞こえるものの音や短い旋律を組み合わせて森を探検する音楽をつくる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) グループ内で「自分の音カード」を入れながら森の様子を話し合い、大体の順序や組み合わせを決める。</li> <li>(2) グループ内で試行を重ねながら音楽をつくる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>○ くり返し聞こえるものの音楽と、時々聞こえるものの音楽をつくり、組み合わせて森の音楽をつくること</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </div> <div data-bbox="268 1003 874 1160"> <p>【思いや意図を表出するための支援③】</p> <p>五人のグループで音楽の仕組みを可視化し、試行錯誤しながら創意工夫する活動のための「自分の音カード」をつかった楽譜の活用</p> </div> <div data-bbox="467 1171 699 1205"> <p>資料－21 操作楽譜</p> </div> <div data-bbox="260 1216 874 1373">  </div> <div data-bbox="276 1384 874 1473"> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. つくった森の音楽を発表し合い、話し合う。             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 反復、変化などの音楽の仕組みを生かして森の中を探検して聞こえる音楽をつくったこと</li> </ul> </li> </ol> </div> <div data-bbox="268 1473 874 1597"> <p>【思いや意図を表出するための支援④】</p> <p>音楽の仕組みを生かして音楽をつくったことを認め合い価値付けるための聴き合い①</p> </div> <div data-bbox="276 1619 874 1675"> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 本時の学習を振り返り次時の学習の見通しをもつ。             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次時はつくった音楽の表現を工夫すること</li> </ul> </li> </ol> </div>	<div data-bbox="906 174 1441 398"> <p>C：小川、水の水滴などくり返し（連続的に）聞こえる音はその音や短い旋律をくり返し続けて表してみよう。</p> <p>C：野うさぎ、小鳥など時々（断続的に）聞こえる音はその音や旋律を時々入れて表してみよう。</p> <p>C：ようせい、光など1回だけ聞こえる音は、その音や旋律をどこかで1回入れて表してみよう。</p> </div> <div data-bbox="906 477 1441 566"> <p>○ 音を入れて試しながら話し合い、音楽をつくることや、途中で音の入れ方を変えてよいことを理解している。</p> </div> <div data-bbox="922 712 1193 739"> <p>資料－20 試行錯誤の場合</p> </div> <div data-bbox="898 745 1201 1037">  </div> <div data-bbox="1225 544 1441 1025"> <p>C：小川の音はくり返し聞こえると 思うから、繰り返 し入れてみたよ。</p> <p>T：かっこうたち は、何をしている のかな。（発問）</p> <p>C：お話しです。</p> <p>T：お話ししている ようにするには、 どのように音を入 れるといいかな。（発問）</p> <p>C：交代で音を入れて みようかな。（カ ッコウの音カード を整理しながら貼 る）</p> </div> <div data-bbox="906 1093 1441 1182"> <p>○ グループでカードを操作しながら音楽をつくられている。</p> <p>◆イー②（様子の観察・演奏の観察）</p> </div> <div data-bbox="906 1227 1441 1429"> <p>C：小川はずっと流れていて、とちゅうでリスとカッコウとようせいが遊んでいる感じを表したかったの、小川の音を繰り返し入れて、リスとカッコウとようせいの音を時々入れました。</p> <p>C：最後は、小川の音を変えていたよ。遠くに消える感じになるね。</p> </div>
<p>た か め る （ イ メ ー ジ に 合</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 (ねらい) 探検しているときの場面の様子がより表れるように、表現を工夫して音楽をつくる</li> </ol> <div data-bbox="220 1753 874 1809"> <p>① 1. 森を探検しているときの三つの場面を大まかに想像し、主人公から見た森の様子を話し合う。</p> </div> <div data-bbox="268 1821 874 1933"> <p>【思いや意図をもつための支援⑤】</p> <p>より自分たちのつくりたい音楽にするための「森の入り口」「森の中」「森の出口」の三つの場面設定</p> </div>	<div data-bbox="906 1765 1441 1944"> <p>C：「森の入り口」は、静かだから少し弱くして、「森の中」は、動物が出てきてにぎやかになるから、だんだん強くしてみよう</p> <p>C：「森の出口」の最後は、静かに、少しゆっくりと終わるといいね。小川から始まって、最後は小川でゆっくり終わるようにしよう</p> </div> <div data-bbox="906 1955 1233 1989"> <p>◆ア－②（様子の観察・発言）</p> </div>

う音楽につくり上げる段階	<p>2. 話し合ったことをもとに、グループで「森を探検して聞こえる音楽」をつくって表現する。</p> <div data-bbox="279 212 853 392"> <p>【思いや意図を表出するための支援⑤】 「森を探検して聞こえる音楽」というテーマを根拠に、工夫したところを書き込んだり、再現したりして試行錯誤しながら創意工夫する活動のための<b>操作楽譜</b>への書き込み</p> </div> <p>3. 発表会をする。</p> <div data-bbox="279 448 853 593"> <p>【思いや意図を表出するための支援⑥】 自分たちが工夫したことや他のグループが工夫したことのよさや面白さを認め合い価値づけるための<b>聴き合い②</b></p> </div>	<p>資料-22 操作楽譜への書き込み</p>  <p>○ 森の様子を想像しながら、強弱を、やや弱く→やや強く→やや弱くして工夫している。 ○ 森の出口の部分になるにつれて、少しゆっくり演奏したり、最後の部分の音を変えて終わり方を工夫したりしている。</p> <div data-bbox="885 504 1436 593"> <p>C: 強さや終わり方を工夫すると、もっと森を探検して聞こえるような音楽になるね。</p> </div> <p>◆ウー① (演奏の聴取・学習プリント)</p>
--------------	--	--

## (8) 考察

### ア 題材の場面設定の工夫

「森のイメージから音楽をつくろう」という題材を取り上げたことで、森の様子や森にいるものを擬声語や擬態語で表し、楽器の音色でどのように表せるか試行錯誤しながら即興的な表現を楽しませることができた。また、「森の中を探検して聞こえる音楽」という、時間と場所に変化があるような場面を設定することで、反復や問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かして音を音楽へ構成することができていた。例えば、「小川はずっと流れているからくり返し入れよう」、「カッコウとリスが、追いかけてっこしているように、交代で入れよう」という思いや意図をもち、表現することができた。さらに、自分たちのつくりたい「森を探検して聞こえる音楽」になるように、強弱をつけたり終わり方を変えたりして、森の中の移り変わりとその様子を表すための工夫を考え、音楽をつくる過程を楽しむことができるのに有効だったと言える。以上のことから、「森を探検して聞こえる音楽」という変化のある場面設定の工夫をしたことは、児童が思いや意図をもって表現する素地となったと言える。しかし、ストーリーをつくるという「場面づくり」と「音楽づくり」の両方をやろうとしてしまったために、音楽づくりのねらいの達成が希薄になってしまった。3年生の発達段階をふまえ、場面絵を一つに統一してもよかったのではないと思われる。児童には音や短い旋律をどのように入れるかについて思いや意図をもたせ、音を音楽に構成させていく活動を仕組むべきだったように思う。

### イ 「まとまりのある音楽」にするための支援の工夫

#### (ア) つかむ段階

つくりたい音楽のイメージをもたせるために森の情景画や挿絵を提示したことは、森の様子や森にいるものを豊かにイメージし、音や短い旋律をつくろうという意欲をもたせるのに有効だった。さらに、最初に「カッコー」や「キラキラ」などの擬声語や擬態語で表現させることで、楽器で即興的に表現する活動にスムーズに入っていくのに有効だったといえる。また、拍にのってモデル演奏をしたことで、森の様子と音や短い旋律とを結びつけられることを理解しながら即興的な表現をすることができていた。また、音の制限をしたことで、楽器の音色を選ぶことに時間をかけすぎず、即興的に表現する面白さを味わわせることができたと考える。4拍子、2小節程度という制限の中で音や短い旋律をつくらせたことは、その後グループで音を音楽に構成していくときに、極端な「ずれ」がなく、自然に「まとまりのある音楽」をつくらせていくのに有効であったと言える。

#### (イ) あらわす段階

「森を探検していて聞こえる音楽」という場面設定をすることで、「森の中でカッコウやリスが遊んでいるように、交代で音を入れよう」というように、児童が情景の中に浸りながら音を音楽に構成することができていた。また、森の様子と音楽の仕組みを生かした音楽とを結びつけるためにモデル演奏をしたが、どのように音や短い旋律を入れていけば表すことができるか理解できていない子もいた。児童に生かしてほしい「音楽の仕組み」を明らかにしてモデル演奏をすることや、何を聴かせるのか視点をはっきりと示すこと、児童の実態のよっては1回だけでなく何回か聴かせることなども必要だと感じた。また、「自分の音カード」は、「つかむ段階」で即興的に表現した音や短い旋律を記録するときと、試行錯誤しながらカードを操作するときに役立った。カードを貼ることばかりに意識が向き、「どのように音を入れよう」という意識が少し薄くなってしまったが、活動の中で「自分の音カード」を操作し、グループでカードを並べ替えたり付加したりしながら創意工夫する姿につながっていった。

#### (ウ) たかめる段階

「森の入り口」「森の中」「森の出口」という三つの場面設定を設定し、試行錯誤しながら創意工夫したことを操作楽譜に書き込ませることで、自分たちのつくりたい音楽になるように強弱や音楽の終わり方など工夫したところが明確になった。また、最後に聴き合いの場を設けたことは、自分たちや他のグループが工夫したことよさや面白さを認め合い、価値付けることにつながっていった。発表する前に、自分たちの思いや意図を音楽用語や言葉で説明させることで、聴く観点が明確になり、反復や変化などの音楽の仕組みを生かして音楽をつくるよさや面白さを感じ取ることにつながっていった。

#### ウ 題材を通しての児童の変容

クラスの児童 29 人に対して 7 月と、11 月の検証授業終了後にアンケート調査を行った。その結果、「思いや意図をもって音楽づくりができていますか。」という質問に対して、7 月は、「よくできている」「できている」の合計が 69%であったのに対し、11 月は 93%に向上している。

「まとまりのある音楽」をつくる支援の工夫を行うことで、思いや意図をもって表現できる児童が育ってきていることが児童の意識から読み取れる。

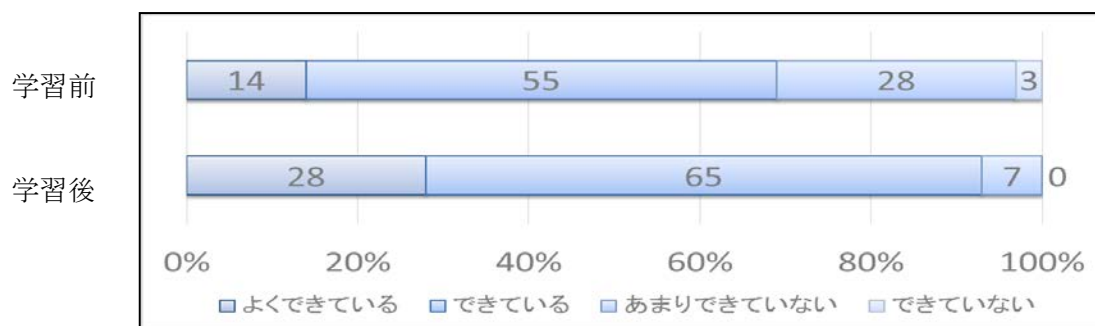


図-5 意識の変容（思いや意図をもって音楽づくりに取り組んでいますか）

以上のことから、「反復、変化などの音楽の仕組みを生かし、終わり方、強弱などを意識した全体にまとまりのある音楽」をめざして、思いをもつための支援と思いを表出するための支援を常にそれぞれの段階に位置付けたことは、思いや意図をもって表現する児童を育てることにつながり、有効であったと言える。

## 1 小学校第4学年

(1) 題材 川の誕生をイメージした音楽をつくろう

(2) 教材 「川はよんでる」

(3) 題材の目標

- 川の音楽に興味関心をもち、音を音楽に表すことに進んで取り組もうとしている。
- 音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をして、川の誕生の音楽をどのように作るかについて思いや意図をもつことができる。
- 川のイメージを即興的に表現したり、いろいろな音型を組み合わせたり、反復や変化などの音楽の仕組みを生かしたりして、川のイメージの音楽をつくることができる。

(4) 題材について

本題材「川の誕生をイメージした音楽をつくろう」では、川の誕生する情景をイメージしながら、川の様子や川な周りにあるものを表す音色を聴き取り、反復、変化などの音楽の仕組みを生かして川の音楽をつくることを中心的なねらいとしている。

そのため、ここでは、川が誕生するという場面の変化があることから、思いや意図をもって反復や変化などの音楽の仕組みを生かすことができるように、題材の設定を工夫している。

「つかむ段階」では、情景画から川の様子や川のまわりにあるものを想像させ、即興的に音をつくり、表現させることで川の誕生をイメージした音楽をつくろうという思いをもたせる。

「あらわす段階」では、まず、モデル演奏を聴かせ、反復や変化などの音楽の仕組みが生み出すよさや面白さを感じ取らせる。そして、グループでつくったストーリーを手がかりに、一人一人の音をどのように構成していくかの思いを持たせながら、音楽になるよう反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、川の誕生をイメージした音楽へと構成していく。

「たかめる段階」では、より自分たちのイメージした音楽になるように、モデル演奏により、音楽の終わり方、速さや強弱などの音楽を特徴づけている要素に目を向けさせながら、音楽をつくり上げていく。そして、つくった音楽を互いに聴き合い、よさを認め合う場をもつ。

以上のように、思いや意図をもたせたり、思いや意図を表出させたりする活動を仕組むことで、思いや意図をもって表現する児童を育てたいと考える。

(5) 本題材でのまとまりのある音楽にするための支援

	つくる音楽	約束・手順	思いや意図をもつための支援	思いや意図を表出するための支援
つかむ	川の様子や川のまわりにあるものをイメージした2小節程度の音や旋律	・レミソラシと音を制限 ・楽器の制限	・3枚の川の情景に変化がある情景画 ・即興的に短い旋律をつくるためのモデル演奏①の提示 ・ストーリーの活用	・擬声語・擬態語での表現 ・一人で聴き比べながら試行錯誤する場の設定 ・聴き比べ
あらわす	反復・変化など音楽の仕組みを生かしてつくった16小節程度の川の誕生をイメージした音楽	・グループ学習の約束 ・手順	・反復、変化の音楽の仕組みを生かしたモデル演奏②の提示 ・ストーリーの活用	・操作楽譜の活用 ・グループで聴き比べながら試行錯誤する場の設定 ・聴き比べ
たかめる	音楽の始め方や終わり方、強弱や音色、速度を意識した全体にまとまりのある川の誕生をイメージした音楽	・グループ学習の約束 ・手順	・終わり方を工夫したモデル演奏③の提示 ・ストーリーの活用	・操作楽譜の活用 ・音楽のもとカードの活用 ・グループで聴き比べながら試行錯誤する場の設定 ・聴き比べ ・聴き合い





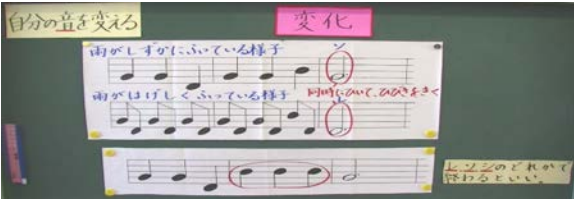

# (6) 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能
題材の 評価規準	川のイメージをもとに、音楽を形づくっている要素を生かして音を音楽に構成することに興味関心をもち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	川のイメージを表す音色や反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音を音楽に構成するための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	いろいろな音型を組み合わせたり、音楽の仕組みを生かしたりするなどの基礎的な技能を身に付け、川のイメージに合った、まとまりのある音楽をつくっている。
学習活動 における 具体の 評価規準	① 川をイメージしてつくられた楽曲に興味関心をもち、即興的な表現に進んで取り組もうとしている。 ② 反復、変化などの音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味関心をもち、思いや意図をもって川の誕生をイメージした音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	① 自分たちのストーリーに合う音を、即興的に楽器で表現している。 ② 音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、自分たちの川の音楽をどのようにつくるかについて思いや意図をもっている。	① 反復、変化などの音楽の仕組みを生かし、川の誕生のイメージにあった音楽をつくることができる。

## (7) 指導の実際と児童の反応

段階	時数	主な学習活動とまとまりのある音楽をつくるための支援	児童の実際○と評価◆
つかむ (つくる音楽の見通しをもつ段階)	2	<p>(ねらい) さまざまな様子の川の情景画を見たり、川を表現した楽曲を歌ったり聴いたりして、川の様子を感じ取り、学習の見通しをもつ。</p> <p>① 1. 情景画や歌唱曲「川はよんでる」の音楽のイメージをもとに、川の様子や川のまわりにあるものについて話し合う。</p> <p>【思いや意図をもつための支援 ①】 つくりたい音楽のイメージができるようにするための川の情景画の提示</p> <p>【思いや意図を表出するための支援①】 イメージを音にするための擬声語・擬態語</p> <p>資料-23 情景画      資料-24 擬声語・擬態語</p> <p>2. 川のまわりから聞こえてくる音のモデル演奏を聴く。</p> <p>【思いや意図をもつための支援 ②】 川の様子と音楽を結びつけることができるモデル演奏①の提示と聴き比べ</p> <p>資料-25 モデル演奏①</p>	<p>○ 3枚の様子の違う川の情景画を提示することで、具体的な情景を思い浮かべさせることができ、川の周りにあるものを擬声語や擬態語に表している。また、それらの様子を音で表し、川の誕生する音楽をつくることを知り、学習の見通しをもっている。</p> <p>T:それぞれの写真から何のどんな音が聞こえますか。(発問) C:山に雨が降ってきている写真から雨が静かにポツポツと降ってくる音がした。 C:大きな川の写真は、大きな流れが、ゆっくりユラユラと流れているような音がする。</p> <p>○ 二つのモデル演奏を提示することで、雨が静かに降っている様子と激しく降っている様子の違いを音の高さやリズムの変化で表すことができることを感じ取っている。</p> <p>T:雨がどのように降っているところを演奏したと思いますか。(発問) C:一つ目は、静かに降っていて、二つ目は、激しく降っているところだと思います。 T:どうしてそう思ったのですか？(発問)</p>

		<p>3. 川の様子や川のまわりにあるものを表す音や旋律を即興的につくる。</p> <div>【思いや意図を表出するための支援②】 即興的に表現した音や旋律がイメージしたものに あっているか確かめるための聴き比べ</div>	<p>○ 一人で、自分のイメージする様子を音に表そうと何度も即興的に試している姿が見られた。</p> <p>資料-26 試しの活動</p> <p>◆ア-① イ-① (様子の観察)</p>																								
	①	<p>1. グループで川の誕生する音楽のくわしいストーリーを考える。</p> <div>【思いや意図をもつための支援④】 思いや意図にあった川の誕生する音楽をつくるために てがかりとなるストーリーの活用</div> <p>資料-28 ストーリー</p> <p>2. グループでストーリーをもとに、登場する人物を確かめ、自分の役割の楽器と音を決める。</p> <div>【まとまりのある音楽に向けた約束】 音の制限、拍子や長さの制限</div> <p>資料-29 音の制限・楽器の制限</p> <table><tr><th>音や拍子の制限</th><th>使う楽器の制限</th></tr><tr><td>1. 五音 (レ・ミ・ソ・ラ・シ)</td><td>・鍵盤ハーモニカ</td></tr><tr><td>2. 3拍子, 2小節</td><td>・リコーダー</td></tr><tr><td></td><td>・木琴</td></tr><tr><td></td><td>・鉄琴</td></tr><tr><td></td><td>・カスタネット</td></tr><tr><td></td><td>・ウッドブロック</td></tr><tr><td></td><td>・スズ</td></tr><tr><td></td><td>・カスタネット</td></tr><tr><td></td><td>・トライアングル</td></tr><tr><td></td><td>・クラベス</td></tr><tr><td></td><td>・ウッドブロック</td></tr></table>	音や拍子の制限	使う楽器の制限	1. 五音 (レ・ミ・ソ・ラ・シ)	・鍵盤ハーモニカ	2. 3拍子, 2小節	・リコーダー		・木琴		・鉄琴		・カスタネット		・ウッドブロック		・スズ		・カスタネット		・トライアングル		・クラベス		・ウッドブロック	<p>資料-27 ストーリーづくり</p> <p>○ 四つの場面を詳しくイメージし、場面で登場する役は何か考えている。</p> <p>○ 使う音は、レ、ミ、ソ、ラ、シのみ使うこと、終止音は、レ、ソ、シが合うこと、3拍子で2小節分つくること、使う楽器を制限することなど、制限をすることで、まとまりのある音楽をつくるための同じ土俵の中で、登場する人物の音をつくっている。</p>
音や拍子の制限	使う楽器の制限																										
1. 五音 (レ・ミ・ソ・ラ・シ)	・鍵盤ハーモニカ																										
2. 3拍子, 2小節	・リコーダー																										
	・木琴																										
	・鉄琴																										
	・カスタネット																										
	・ウッドブロック																										
	・スズ																										
	・カスタネット																										
	・トライアングル																										
	・クラベス																										
	・ウッドブロック																										
あ ら わ す  (音楽の仕組みを生かして音楽をつくる段階)	1	<p>(ねらい) 反復、変化などの音楽の仕組みを生かし、川の誕生をイメージした音楽をつくる。</p>																									
	① 本 時	<p>1. 前時の学習を振り返りめあてをつかむ。</p> <div>つくった音を組み合わせ、川の誕生を イメージした音楽をつくろう</div> <p>2. 教師によるモデル演奏を聴き、音楽のつくり方を考える。</p> <div>【思いや意図をもつための支援⑤】 川の様子と音楽を結びつけるための反復や問いと 答え、変化のあるモデル演奏②の提示</div> <p>資料-30 モデル演奏②</p> <p>資料-32 音楽の仕組みを生かしたモデル演奏②</p>	<p>○ 二つの様子が異なるストーリーから、音楽の仕組みの使い方を学習している。</p> <p>T: 雨の様子を表しました。どんな様子に聞こえますか。どうしてそう思ったの (発問)</p> <p>C: 何回も繰り返されて、後から別の音が入ってきたから、雨が静かに降ってきて、どんどんひどくなる様子に感じたよ。</p> <p>C: ゆっくりのリズムと速いリズムが交代で出てきたから、静かに降っている様子と激しく降っている様子が交互になっている感じがしたよ。</p> <p>資料-31 教師によるモデル演奏</p> <p>繰り返しや音の重なり、交代を使うとストーリーに合う音楽をつくることができるんだな。</p>																								

	<p>3. 自分のつくった音や旋律を組み合わせて、グループで音楽をつくる。</p> <p>(1) 手順や約束を知る。</p> <p>(2) 操作楽譜にストーリーをもとにしながら話し合い自分の音カードを貼る。</p> <div data-bbox="300 309 898 459" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思いや意図を表出するための支援③ ④ ⑤】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いや意図を表現しながら、音を音楽に構成していくための<b>操作楽譜・ストーリー</b>の活用</li> <li>・<b>グループで試行錯誤する場の設定</b></li> </ul> </div> <p>○ 各場面 4 小節で、4 場面構成</p> <p>(3) グループでためしの演奏をする。</p> <div data-bbox="300 571 898 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思いや意図を表出するための支援⑥】</p> <p>思いや意図が音楽に表れているか試すための<b>聴き比べ</b></p> </div> <p>4. 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p> <p>○ 反復、変化などの音楽の仕組みを生かして川の誕生をイメージした音楽をつくったこと</p> <p>(1) グループの演奏の発表</p> <div data-bbox="300 835 898 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思いや意図を表出するための支援⑦】</p> <p>つくった音楽を言葉と音楽で表現する<b>聴き合い</b></p> </div> <p>(2) 次時の見通しをもつ。</p> <p>○ 終わり方を考えること</p>	<p>○ 1 の場面からつくり、場面ごとに試しの演奏をしていくことを知ることができた。</p> <p>資料－33 操作楽譜を使って考える</p>  <div data-bbox="959 495 1433 701" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: 1 の場面はどのように考えたの。</p> <p>C: 雨は激しく降ってきたから、ここまで貼って、最後の方を少し弱く弾いたらいいと思います。風も、激しいから全部張った方がいいと思います。</p> <p>T: 繰り返しと音の重なりを使うんだね。やってみてごらん。(指示)</p> </div> <p>◆ア－② イ－② (様子の観察)</p> <p>資料－34 聴き比べする様子</p>  <p>○ 二つの演奏を聴き比べて、イメージに合う音楽の構成の仕方を選んでいる。</p>
<p>た か め る</p> <p>(イメージに合う音楽につくり上げる段階)</p>	<p>2 (ねらい) 川の誕生する様子がより表れるように、表現を工夫して音楽をつくる。</p> <p>①</p> <div data-bbox="300 1211 898 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思いや意図をもつための支援⑥】</p> <p>川の音楽の終わり方を考えようと見通しをもつことができる終わる感じになった<b>モデル演奏③－1 の提示</b></p> </div> <p>(1) 自分の音を変化させる終わり方を考える。</p> <p>資料－35 終わり方を考えるモデル演奏</p>  <p>(2) 曲全体の終わり方を考える。</p> <p>資料－36 終わり方のパターン</p>  <div data-bbox="751 1610 927 1711" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>変化させたと ころに赤シールを貼る</p> </div> <div data-bbox="300 1899 898 2011" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思いや意図を表出するための支援⑧】</p> <p>イメージに合う終わり方ができているか確かめるための<b>聴き比べ</b></p> </div> <p>3. つくった音楽を発表し、次時への見通しをもつ。</p>	<p>○ 曲の最後の音をレ、シ、ソのいずれかで終わると終わった感じがすることや、その他の役の音と和音になるように工夫することができることを知ることができた。</p> <div data-bbox="959 1335 1433 1603" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: 一つの役の最後の音をソ、もう一つの役の音をレにするとどんな感じがしますか。(発問)</p> <p>C: ソとレがはもってきれいな感じがします。</p> <p>C: 終わった感じがします。</p> <p>T: 音を変化させると、終わった感じになりますね。</p> </div> <div data-bbox="959 1626 1433 1895" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: 二つの演奏の仕方を聴き比べてみてごらん。どんな違いがありますか。(指示・発問)</p> <p>C: 楽器が増え、と、だんだん海になっていく感じがします。</p> <p>C: 楽器が減るとまた静かに雨が降って、雨で川ができるということが伝わります。</p> </div> <p>○ みんなで終わると、川の誕生が華やかで壮大な感じがすること、だんだん演奏する人数を減らしていくと、穏やかで静かな感じがすることを感じ取っている。</p>



①	<p>1. 強弱などの工夫についてモデル演奏を聴き、話し合う。</p> <div data-bbox="304 192 927 309" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思いや意図をもつための支援⑦】 イメージに合う川の音楽に高めるための、強弱や音色などの表現を工夫した<b>モデル演奏③－２の提示</b></p> </div> <p>(1) ストーリーに合う強弱を考える。 (2) ストーリーに合う音色を考える。 資料－38 強弱や音色の工夫を聴き取るモデル演奏③</p> <p>○ 音楽のもとカード（強弱・音色） 強・・・赤シール      弱・・・青シール だんだん大きく・・・クレッシェンド だんだん小さく・・・デクレッシェンド</p> <p>2. グループで強弱や音色を考え、音楽を高める。</p> <div data-bbox="304 831 911 947" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思いや意図を表出するための支援⑨】 イメージに合う川の誕生する音楽になっているか確かめるための<b>聴き比べ</b></p> </div> <p>3. つくった音楽を発表する。</p>	<p>○ 静かな雨は弱、激しい雨は強。マレットの違いによっても表す様子が工夫できることを知ることができた。 資料－37 イメージに合うように強弱を考える様子</p> <p>資料－39 聴き比べ活動をしている様子</p> <div data-bbox="970 772 1422 952" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T:聴き比べてみてごらん。（指示） （演奏） C：こっちは雨が激しいね。 C：雨はやさしく降ってくるから、始めは弱い方がいいね。</p> </div> <p>◆ウー①（演奏の観察）</p>
---	--	---

## (8) 考察

### ア 題材の場面設定の工夫

「川の誕生をイメージした音楽をつくろう」という題材を設定して、よかった点は、二つある。一つ目は、「川」という身近な題材であるということである。川は、児童にとって身近なものである。風、波、鳥など川の周りにあるものも想像しやすく、学習への見通しももちやすかった。また、川の誕生ということで、川から雨や海などのイメージにつながっていったが、雨や海は、児童にとって生活経験上身近な素材であったと言えるであろう。

二つ目は、「川の誕生」というはっきりとした場面の变化のある題材ということである。本題材では、1の場面では「山に雨が降ってくる」、2の場面では、「雨が集まり、小さな流れができてくる」、3の場面では、「小さな流れが集まり、おおきな流れになってくる」、そして、4の場面では、「どのようになるのか各グループで考える」というように、大まかな流れがあり、各場面の様子を児童がはっきりとイメージしやすい構成となっている。そのため、その変化を表すために、音楽の仕組みを生かして変化を表したい、強弱、速さなどをつけて、情景をもっと表したいと、思いや意図をもって表現することができた。このように、共通の場面変化のある題材を工夫したことは、どのグループにも共通の場面の変化があり、最後にはグループの創意工夫を生かした場面をつくり出す面白さもあることで、4年生の発達段階に適していて、思いや意図をもって表現する児童を育てる上で、有効であったと言える。

### イ まとまりのある音楽にするための支援

#### (ア) つかむ段階

つかむ段階で、それぞれの場面の三つの情景画を提示したことで、児童はつくる音楽を視覚的に見て感じ取ることができた。また、つかむ段階でのモデル演奏①は、児童が表したいと思っているものを音符の長さや音の高さなどを工夫することで表すことができることを知ることにつながった。



その際、リズムや楽器の音色などの音楽を特徴付けている要素に目を向けさせ「このような音楽をつくりたいな」という思いをもたせることが大切であると考えます。また、そうしてもった思いや意図を表出させるために、川のまわりにあるものを擬声語・擬態語で表すことは、楽器の音色やつくる旋律のリズムそのものであったり、自分の音をつくるためのヒントになるものであったりすることから、思いや意図を表現しやすくなったのではないかと考える。

さらに、音の制限や小節数、拍子などを限定させて音をつくらせたことは、音をつくった後のまとまりのある音楽をつくる際の土壌づくりになり、音楽づくりの活動をスムーズに進めることにつながっていくと考える。

#### (イ) あらわす段階

あらわす段階のモデル演奏は、音楽をどのようにつくっていくのか、ストーリーをもとにしながらモデル演奏をしてみせたことで、児童たちは、自分たちのストーリーをもとにしながら、反復・変化・音の重なりなどの音楽の仕組みを生かし、音楽をつくることができた。モデル演奏を聴いて、思いや意図をもった後は、その思いを表出するための操作楽譜に表すことができた。自分の音を入れるところをやみくもに決めていくことなく、ストーリーを手がかりに操作楽譜を使って音楽を構成していくことができた。構成した音楽はその場で即決することなく、必ず試しの演奏を行い、どちらの構成がよいか、ストーリーに返りながら聴き比べを行っていった。そしてもった思いをさらに、操作楽譜に表出することで、児童は、思いや意図をもって表現することを繰り返し、「まとまりのある音楽」を構成していくことができた。

#### (ウ) たかめる段階

たかめる段階のモデル演奏は、音楽の終わり方や強弱や音色の工夫をしていくことで、イメージに合う音楽につくり上げることができることを知ることができた。この時は、児童2人にモデル演奏をしてもらうことで、ストーリーに合うような表現の工夫の仕方について音を重ねながら見せることができ、それを聴いた児童が思いや意図をもつことにつながった。その際、もった思いや意図を表出するために、操作楽譜や音楽のもとカードなどを使って、表現の工夫を行った。また、試しの演奏を繰り返し入れ、聴き比べ活動をすることで、自分たちのつくる音楽のイメージに合うような「まとまりのある音楽」の構成や工夫ができた。

以上のように、思いをもたせるための支援と思いを表出させるための支援は、切り離して考えるのではなく、連続発展していくように、位置付けていくものである。また、それらの支援の工夫を行うことは、まとまりのある音楽にするために大きな役割を果たしており、児童が思いや意図をもって表現する上で有効であったと言えるであろう。

#### ウ 題材を通しての児童の変容

クラスの児童 35 人に対して、音楽づくりについてのアンケートを行った。その結果、「思いや意図をもって音楽づくりができていますか。」という項目において、1 学期末はよくできる、できると答えた児童が 39%であったが、授業後は、よくできる、できると答えた児童が 83%を占めた。以上のことから、まとまりのある音楽の支援の工夫を行うことは、思いや意図をもって表現する児童を育てる上で有効であったことがうかがえる。

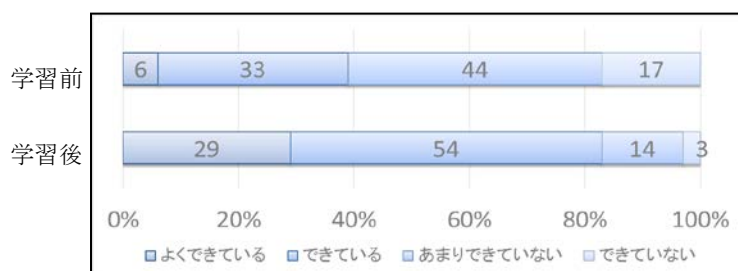


図-6 意識の変容(思いや意図をもって音楽づくりに取り組んでいますか)

## 1 小学校第5学年

(1) 題材 言葉のイメージから音楽をつくろう

(2) 教材 「ゆき」 (草野心平作詞)

### (3) 題材の目標

- 「ゆき」に興味をもち、その様子を意欲的に音や音楽に表そうとしている。
- 雪が降る様子をイメージしながら言葉に合った音を探し、音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について思いや意図をもつことができる。
- 音楽の仕組みを生かして、雪の降り積もる様子の移り変わりのある音楽をつくることができる。

### (4) 題材について

本題材「言葉のイメージから音楽をつくろう」は、言葉の響きから想像を広げ、反復、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かしながら雪の降り積もる様子を表す音楽をつくることをねらいとしている。

ここでは、色々なリズムで音読をすることによって生まれた様々な雪の降り方を組み合わせてストーリーを生み出し、場面によって変化する様子を音楽の仕組みに生かさせるように題材の場面設定を工夫した。また、同じモデル演奏を各段階ごとに違う視点で聴かせることで、見通しを持って音楽をつくることができるように工夫した。

「つかむ段階」では、音読によって「しんしん」や「ゆきふりつもる」という言葉の響きから想像を広げ、いくつかの制限をしながら旋律をつくらせることで、自分の表したい雪の降り方にぴったりの音をつくらせる。その上でそれらを組み合わせることで、様々な情景の変化が表現できるという、大まかな見通しをもたせる。

「あらわす段階」では、モデル演奏の提示によって音楽の仕組みに目を向けさせ、操作楽譜等を活用しながら、反復や変化、音楽の縦と横の変化の工夫を様々な試しながら音を音楽に構成させていくようにする。

「たかめる段階」では、モデル演奏の提示によってつくった音楽をもっと自分たちが表したいイメージに近づけるための要素に目を向けさせるようにする。音楽の始まり方や終わり方、場面ごとの表現を工夫させ、さらに「まとまりのある音楽」へ高めながら、自分たちの思いや意図をより明確に音楽に表すための聴き合い活動の場を設定する。


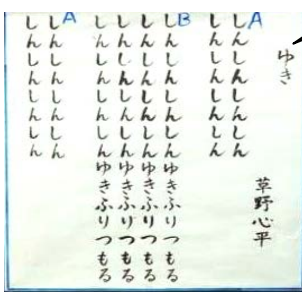
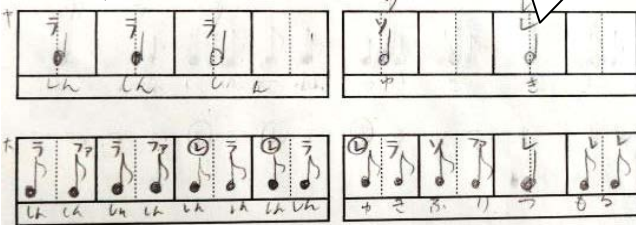
### (5) 本題材での「まとまりのある音楽」にするための支援




	つくる音楽	約束・手順	思いや意図をもつための支援	思いや意図を表出させるための支援
つかむ	4分の4拍子 言葉のイメージから即興的に つくった2小節の旋律	・音の制限 (レ, ファ, ソ, ラの4 音)	・全体を見通すための モデル演奏①の提示 ・縦書きの歌詞の提示 ・情景画の提示	・一人で試行錯誤する場の 設定 ・学習プリントの活用 ・聴き比べ
あらわす	A-B-A または A-B-C の構成 反復、変化、音楽の縦と横の関係を 生かしてつくった12小節の音楽	・グループ活動 の手順 ・約束の提示	・仕組みを生かすための モデル演奏②の提示 ・ストーリーの活用 ・形式の選択	・グループで試行錯誤する 場の設定 ・操作楽譜 ・聴き役の設定 ・聴き比べ
たかめる	音楽の始め方や終わり方、強 弱、速度などを工夫し、場面ご との表現を考えた12小節程度 の音楽	・グループ活動 の手順	・要素に目を向ける モデル演奏③の聴き比べ ・ストーリーの活用	・グループで試行錯誤する 場の設定 ・操作楽譜 ・聴き比べ ・聴き合い

# (6) 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	声に出して表現することや、音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成することに主体的に取り組んでいる。	雪の降り積もる様子を表現するために、思いや意図をもって音楽の仕組みを工夫している。	音楽の仕組みや音楽を特徴付けている要素を生かして雪の降る様子を「まとまりのある音楽」に表している。
学習活動における具体的評価規準	① 自分から様々な「ゆき」の表現を試したり、つくった表現を聴き合おうとしたりしている。	① 自分たちの表したい「ゆき」の様子に合うように音楽の仕組みを生かして工夫している。 ② 自分たちの表したい「ゆき」の様子にさらに近づくように音楽の仕組みを生かして工夫している。	① 反復や変化、音楽の縦と横の関係、強弱や速度などを使って自分たちのつくった「ゆき」を「まとまりのある音楽」にすることができる。

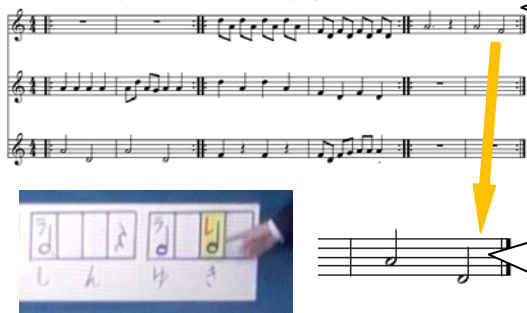
# (7) 指導の実際と児童の反応

段階	時数	主な学習活動と「まとまりのある音楽」をつくるための支援 <input type="checkbox"/>	児童の実際○と評価◆
つかむ（つくる音楽の見通しをもつ段階）	1	(ねらい) 雪の降る様子を表す言葉の響きに合う音をつくり、どんな雪の様子を表したいか考えて学習の見通しをもつ。	
	①	<p>1. 詩を音読し、学習の見通しをもつ。</p> <p>【思いや意図をもつための支援－①】 つくる音楽の見通しをもたせるための<b>モデル演奏①</b></p> <p>資料－40 モデル演奏①</p>  <p>2. リズムを変えて音読し、その場の様子を思い浮かべる。</p> <p>【思いや意図をもつための支援－②】 音づくりの発想を広げやすくするための<b>縦書きの歌詞</b>と様々なリズムの音読</p> <p>資料－41 縦書きの詩</p>  <p>3. 「しんしんしんしん」の言葉に合う音をつくる。</p> <p>4. 「ゆきふりつもる」の言葉に合う音をつくる。</p> <p>【まとまりのある音楽にするための約束手順】 「まとまりのある音楽」にしやすくするための<b>音階の制限</b>（レファソラの4音）</p>	<p>○ 歌で、同じ言葉を繰り返してこれくらいの長さの音楽をつくるんだな。という最終的な音楽を見通すことができた。</p> <p>T: これから3時間でこんな音楽をつくっていきますよ。気付いたことを後で教えてもらいます。（指示）</p> <p>C: 響く歌声で歌っていてきれいな雪の景色の歌だと思いました。</p> <p>C: 2連だけ「ゆきふりつもる」が入っていて「しんしん」もたくさん書いてあるから雪がいっぱい降っている様子だと思います。</p> <p>「しんしん」と同じ言葉を繰り返して歌っていました。</p> <p>C: 8分音符のリズムで読むとたくさん雪が降っている感じがします。</p> <p>C: 2分音符のリズムで読むと穏やかに雪が降っている感じがします。</p> <p>C: 付点のリズムで読むとゆらゆら雪が降っている感じがします。</p> <p>○ 色々な雪の降り方が表現できることに気づき、自分なりに色々試しながら表してみたい雪の降り方を考えていた。</p> <p>C: 高い音を使った方が小さい雪が降っている感じがするなあ。</p> <p>C: 2分音符を使ってゆっくり穏やかに雪が降っている様子が表れるようにしてみました。</p> <p>資料－4 二つかった音</p>  <p>◆ア－①（様子の観察）</p>

	<p>5. どんな雪の音楽をつくりたいかを考える。</p> <p>【思いや意図をもつための支援－③】 雪の降る様子の変化を想像しやすくするための複数の<b>情景画の提示</b></p> <p>資料－43 複数の情景画</p> 	<p>T: A君, B君, C君の音をつないで歌ってみたら, どんな様子になっていましたか。(発問)</p> <p>C: 途中でどんどん降ってきた感じです。そのあと最後は小降りになりました。</p> <p>T: 雪の様子の絵を並べるとこんな順で様子が変わっていききましたね。</p> <p>C: 私も途中で雪がたくさん降ってきて, 最後は雪がやむようにつくってみたいです。</p>
あ ら わ す  (音楽の仕組みを生かして音楽をつくる段階)	<p>1 (ねらい) 情景画やストーリーを手がかりにして音楽の仕組みを生かしながら音楽をつくる。</p> <p>① 1. 本時のめあてをとらえ, 学習の見通しをもつ。</p> <p>【思いや意図をもつための支援－④】 反復や変化などの音楽の仕組みに気付かせるための<b>モデル演奏②</b></p> <p>2. 音を組み合わせる音楽をつくる。</p> <p>(1) 表したいストーリーを考える</p> <p>【思いや意図をもつための支援－⑤】 仕組みを生かしやすくするためのA-B-AまたはA-B-Cの<b>形式の選択</b></p> <p>【思いや意図をもつための支援－⑥】 根拠をもって工夫させやすくするための<b>ストーリーの活用</b></p> <p>(2) 音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成する。</p> <p>【思いや意図を表出するための支援－①】 試行錯誤させるための<b>自分の音カードの操作と聴き比べ</b></p> <p>資料－44 自分の音カード</p>  <p>3. つくった音楽を発表し合い, 次時の学習の見通しをもつ。</p> <p>【思いや意図を表出するための支援－②】 様々な仕組みの工夫のよさに気付かせるための<b>聴き合い</b></p>	<p>○ 視点をはっきりさせてモデル演奏を聴かせることで, 音楽の仕組みに目を向けて情景の変化と結びつける姿が見られた。</p> <p>T: 「音楽」にするためにどんな秘密がありますか。(問い)</p> <p>C: 「しんしんしんしんゆきふりつもる」というの(同じフレーズ)を2回繰り返しています。</p> <p>C: 詩と同じように, 三つのまとまりになっています。</p> <p>○ どんな様子を表したいかグループで全体を見通してつくる音楽の共通理解ができた。</p> <p>C: ここは, 誰一人いない野原です。真っ白いきれいな雪が次から次へと降ってきました。→突然大きな雪が嵐のように降ってきました。→だんだんと雪が小さくなり, ふわふわした雪がかすかに降っています。(A-B-C)</p> <p>○ 自分の音カードを貼ったり動かしたりして, つくりたい音楽になっているか聴き比べながら音楽をつくる姿が見られた。</p> <p>◆イ－① (学習プリントの記述分析)</p> <p>C: Bの部分からは強く降る感じに変えたいから○○さんの音を使ってみよう。</p> <p>C: もっと嵐のように雪が降る様子を表すために僕がつくった音をBの部分に重ねてみよう。</p> <p>資料－45 操作楽譜</p>  <p>○ つくった12小節の音楽の思いや意図を音楽用語などを用いて言葉と音楽で表現した。</p>
た か め る	<p>1 (ねらい) 自分たちの表したい様子がより表れるように音楽の仕組みや音楽を特徴付けている要素を工夫して音楽をつくる。</p> <p>① 1. 本時のめあてをとらえ, 学習の見通しをもつ。</p> <p>(1) 前時の表現を想起する。</p> <p>・代表グループによる演奏</p> <p>(2) 本時のめあてを確かめる。</p> <p>めあて 雪の降る様子の移り変わりがもっと表れるように, すてきな音楽にしよう。</p> <p>(3) 工夫の観点を聴き取る。</p> <p>【思いや意図をもつための支援－⑦】 終止感や強弱に目を向けさせるための<b>モデル演奏③</b></p>	<p>C: Bの場面で雪がたくさん降っている様子を表すために, 音を重ねました。</p> <p>○ もっと素敵な音楽にするための工夫を見つけようと, モデル演奏を聴かせたことで, 音楽の終止感や, 音楽を特徴付けている要素に目を向ける姿が見られた。</p>



資料-46 モデル演奏の聴き比べ



(4) 学習の手順を確かめる。

【まとまりのある音楽にするための約束手順】  
試行錯誤しながら工夫させるための、グループ活動の手順の提示

資料-47 グループ活動の手順

**グループ活動の進め方②**

**終わり方を考える**

- ① どんな工夫をしたら終わった感じがするか考えを出す。
- ② きき役の人を一人決めて工夫した終わり方で音楽を歌ってみる。
- ③ きき役の人から意見を聞きながらみんなで話し合い、よかったら楽譜に書きこむ。

**ストーリーに合う工夫を考える**

- ① もっとストーリーに合うようにするためにはどうすればいいか考えを出す。
- ② 工夫した歌い方で音楽を歌ってみる。
- ③ きき役の人から意見を聞きながらみんなで話し合い、よかったら楽譜に書きこむ。

2. 音楽の仕組みや音楽を特徴づけている要素を工夫して表現を高める。

(1) 終わり方を工夫する。

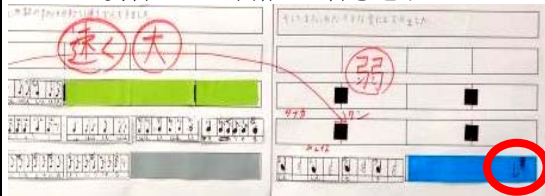
【思いや意図をもつための支援-⑧】

新しい工夫の方法に気付かせるためのグループ同士の聴き合い

【思いや意図を表出するための支援-③】

工夫を再現するための楽譜への書き込み

資料-48 楽譜への書き込み



(2) 強さや速さなどを工夫する。

【思いや意図を表出するための支援-④】

様々な表現を比べさせるための聴き役の設定

3. 工夫を加えた雪の音楽を聴き合う。

(1) 高めた「ゆき」を聴き合い交流する。

【思いや意図を表出するための支援-⑤】

思いや意図を明確にした表現の聴き合い

4. 学習を振り返り、まとめる。

C: Bの部分はたくさんの人数で強く歌っているの雪がたくさん降っている感じがします。

C: 音がだんだん小さくなって曲が終わった感じがします。

○ 「変化」を聴き比べさせたことで、終止感を生み出す新たな工夫に気付く姿が見られた。

T: 工夫する前の最後の部分と、工夫した後の最後の部分を比べて聴いてみましょう。(指示)

C: 同じ繰り返しではなく、最後の音が低い音に変わっています。

C: 最後の音だけがファからレに変わったことで終わった感じになっています。

○ 活動の手順を示し、進行役や聴き役などの役割を提示したことで、活動が明確になり、表現を試行錯誤する姿が見られた。

C: 曲の終わり方をどう工夫したらいいか考えを出してください。

C: 雪が解けてなくなる様子を表すために、終わり方はだんだん声を小さくしたいと思います。

C: みんながだんだん声を小さくするんじゃなくて歌う人数を減らしたいと思います。

C: まず、Aくんのアイディアから試してみよう。

○ 工夫したことを楽譜に書き込ませたことで、自分たちの工夫を意識しながら演奏することができていた。

C: A班の音の変化は、終わった感じがよく表れているから、僕たちがしている強さの工夫と音の変化を一緒にしてみるのもいいなあ。

C: 終わり方はいい感じにできたから次はB班のように中の部分をもっと吹雪がふいているように大きく歌う工夫をしてみよう。

◆ イー② (様子の観察, 学習プリントの記述分析)

◆ ウー① (操作楽譜・ビデオの分析)

C: はじめは少しずつ降り始めるから人数を減らして歌い始めよう。

C: A君は聴いていてね。

C: 今ではぜんぜん変わった感じがしないよ。

C: もっと弱くするために人数を減らして、一人ひとりの声も小さくしよう。

C: 次はどんどん雪が降ってきている感じを出すために、Bの部分をもっと速く歌おう。

C: 僕たちの班は、たくさん雪が降っている感じを出すためにBの部分の速さを速くしました。そして、雪がとけていく感じを出すために最後をゆっくりにしました。

資料-49 聴き合いの様子

○ つくった音楽の思いや意図を音楽用語などを用いて言葉と音楽で伝え合うことで、表現への思いを高めたり、工夫した表現を認め合ったりできた。



C: 最後がゆっくりになって声の大きさも小さくなって終わったので、本当に雪が解けてなくなっていくような感じがしました。

## (8) 考察

### ア 題材の場面設定の工夫について

草野心平の「ゆき」を題材に取り上げたことで、繰り返すことのよさを感じ取ったり、繰り返すことによってフレーズのまとまりが生まれることを意識したりすることができた。また、詩のつくりが、音楽のA-B-Aのようになっていることに気付き、見通しをもって「まとまりのある音楽」をつくっていくことで、思いや意図を明確にして音楽をつくる姿につながった。雪が降り積もっていくイメージは、音楽の縦と横の関係を生かして音の重なりを工夫するのに合っていて、音楽の仕組みを生かしながら思いや意図をもって表現する児童の姿につながった。

また、「しんしんしんしん」という簡単な言葉の繰り返しは、様々なリズムや速さで音読することで、思い浮かべる雪の降り方が大きく変わる。この変化をうまく生かすため、時間の経過に沿って雪の降り方に変化のある場面設定をし、児童には、「雪が降り積もる様子の移り変わりを音楽で表そう」と提示した。自分たちでつくった様々な雪の降り方を表す「音」を組み合わせ、どんな様子を表したいか考えさせることで、A-B-AやA-B-Cの形で変化を使って音楽をつくろうとする姿につながった。この「A-B-Aの形で音楽をつくろう。」という見通しの上にストーリーを肉付けしたことで、全体に構成感のある音楽をつくることにつながり、思いを広げ、根拠を明確にしながらか音楽の仕組みを工夫させる上で有効であった。

### イ 「まとまりのある音楽」をつくるための支援の工夫

#### (7) つかむ段階

つかむ段階においては、まず、モデル演奏の聴き取りを行い、つくる音楽のゴールの見通しをもたせた。歌によって美しい雪の様子を表すこと、反復を使ってつくること、12小節程度の音楽をつくることなどの見通しをもっていたことで、全体に「まとまりのある音楽」をつくろうとする意識をもたせることができた。また、ここでは情景画も活用した。音読でこんな様子が表せそうだと気付いたイメージを3種類の情景画で視覚化したことで、思いを明確化することができた。この情景画を時間の経過にそって並べ替えさせることによって、構成感のある音楽をつくる見通しをもたせることができた。また、1小節を4拍で音をつくること、レファソラの4音でつくることなどの音づくりの制限を設定した。一人ひとりが同じ拍数で音をつくることで、音を音楽に構成する際に反復や変化を生かすことや、フレーズ同士を重ねて音楽をつくるのがスムーズにできていた。また、音を4つに制限していたことで、フレーズを覚えることの負担が減り、できた音楽の美しさを感じ取りながら活動することができた。

#### (4) あらわす段階

あらわす段階においては、音楽の仕組みを生かすためのモデル演奏の提示を行った。音楽の仕組みを聴き取るように視点をもたせたことで、繰り返すことによってまとまりが生まれていること、変化させることによって場面の様子の移り変わりが表現されていることに気付き、いくつかのフレーズを重ねることのよさに目を向けさせることができた。また、この段階では、考えている仕組みの工夫が、自分たちの表したい雪の降る様子を表現するのに合っているのかどうか試行錯誤させるために、聴き比べをさせた。工夫する前とした後を続けて演奏してよさを見つけさせたり、複数の工夫を順に演奏して効果を比べさせたりすることで、思いや意図が音楽として明確になったり、広がっていったりする様子が見られた。また、操作楽譜を用い、自分の音カードや繰り返しを表すカードを操作させた。楽譜は反復と変化、音楽の縦と横の関係にしばって工夫する構成になっているため、児童が工夫の視点を見失わずに、仕組みを生かして音楽をつくろうと活動することができて

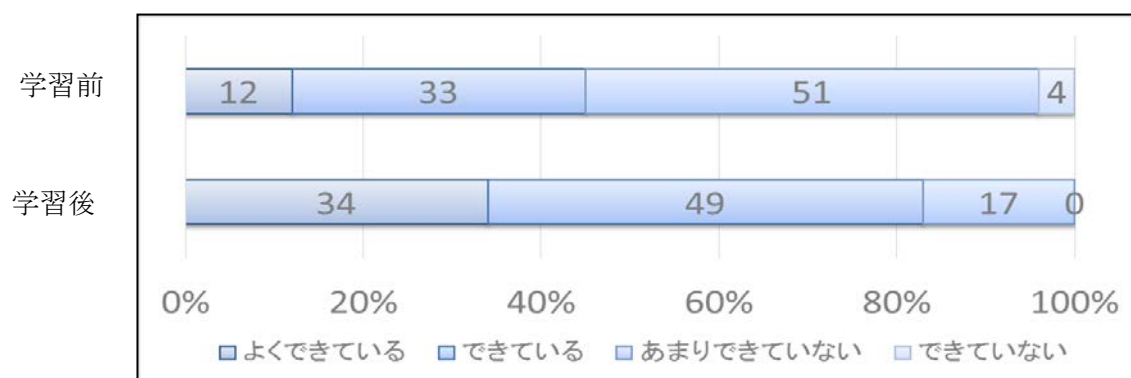
いた。この操作楽譜には自分たちの思いや意図が目に見える形で現れるので、教師がそのグループの工夫点や課題を把握するのに大変便利であった。児童は一つ工夫をしてみる毎にカードを操作し、よりよい工夫を考えていくことができ、試行錯誤する活動を十分に保証することができた。

#### (ウ) たかめる段階

たかめる段階では、新たな工夫の観点に気付かせるために代表児童の演奏とモデル演奏を続けて聴かせた。これまでの自分たちの工夫を想起した上でモデル演奏と聴き比べたことにより、まだ自分たちが行っていない工夫を探して聴く児童の意識につながった。このことで、音楽を特徴付けている要素を工夫すれば自分たちの表したい様子をもっとよく表せるということに気付くことができた。しかし、「変化」を生かすことで終止感が生み出されていることについては見つけることができていなかった。最後の2小節を取り出して工夫する前、工夫した後の演奏を電子オルガンで聴き比べさせた。このことで音の変化や強弱、速度を工夫することで終止感を生み出すことができるという見通しをもたせることができた。

また、思いや意図を「こうするためにこうしてみたい」という言葉で表出させ、その思いや意図を音楽で表現して試行錯誤する一連の流れをスムーズにするために、グループ活動の手順や役割を提示した。意図がわからないときは進行役が根拠を問い返すことでグループの思いや意図をみんなで共有しようとする姿が見られた。手順にそって活動することで、活動の目的を見失わずに意見を出し合い、音楽がよりまとまりのあるものになっていった。また、表現の工夫を楽譜に書き込ませることにより、複数の工夫を積み重ねて、さらに自分たちの表したい様子に近づくように工夫することができていた。最後に、最終的に出来上がった音楽の聴き合い活動を設定した。このとき、自分たちの工夫を言葉で説明した上で演奏させることにより、そのグループの意図が他のグループに伝わり、音楽の仕組みや要素を工夫するよさを感じ取りながら音楽を聴こうとする児童の姿につながった。

#### ウ 題材を通しての児童の変容



図ー7 意識の変容（思いや意図をもって音楽づくりに取り組んでいますか）

クラスの児童41人に対して7月と、11月の実証授業終了後にアンケート調査を行った。その結果、「思いや意図をもって音楽づくりができていますか。」という質問に対して、実証授業前は、「よくできている」「できている」の合計が45%であったのに対し、実証授業後は83%に向上している。「まとまりのある音楽」をつくる支援の工夫を行ったことで、思いや意図をもって表現できる児童が育ってきていることが児童の意識から読み取れる。

### 第Ⅲ章 研究のまとめ

#### 1 研究の成果

本研究室では、思いや意図をもって表現する児童の育成をめざし、音楽づくりの活動において実践的な研究を進めてきた。これにより、以下のような児童の姿が見られたことから、本研究の仮説は有効であったと考える。

- つかむ段階からたかめる段階まで、児童は自分の思いや意図を連続・発展させながらその実現に向けて主体的に音楽に関わり、音楽をつくって表現することができた。
- 自分たちがつくった音や音楽が、思いや意図にそった音楽表現になっているか、何度も聴いてはグループの友だちと話したり試したりして思考・判断し、表現していくことができていた。
- 全員で一つの音楽をつくっていく経験を通して、児童は自分たちの思いや意図を表現できたことに満足し、音や音楽をつくる喜びを感じることができていた。

具体的には、以下の3点において有効性を見出すことができた。

##### (1) 3段階の学習指導過程におけるめざす児童の姿の設定

「つかむ」「あらわす」「たかめる」の3段階の学習指導過程にめざす児童の姿を設定し、つくる「まとまりのある音楽」を明確にしたことにより、各段階での指導内容が明らかになり、そのために行う支援を明確にすることができた。

##### (2) 題材の場面設定の工夫

低・中・高と発達段階に応じた場面設定の工夫をすることで、場面の变化、時間の流れ等を意識しながら「場面の様子を表すためにこうしよう」という思いや意図をもったり、「こんな音楽にしよう」と楽曲全体の構成を見通したりして、児童が思いや意図をもってまとまりのある音楽をつくる姿につながった。

##### (3) 「まとまりのある音楽」にするための支援の工夫

「まとまりのある音楽」にするための支援として「思いや意図をもつための支援」と「思いや意図を表出するための支援」を各段階に行った。「思いや意図をもつための支援」では、聴く視点を焦点化する等、指導のねらいに沿ったモデル演奏を提示することが有効であることが分かった。また、モデル演奏で聴き取り、感じ取ったことが音楽づくりへの思いや意図となるので、思いや意図をもって表現する児童の育成のためには、児童が聴き取れていなかったらもう一度聴かせるなど、知覚・感受することを大切に学習を進めることが大切であることが明らかになった。

「思いや意図を表出するための支援」では、個人やグループで十分に活動できる場の設定が有効であった。活動の場では、児童は自分の思いや意図が表れているか音や音楽で表現したり言葉で説明したりしながら聴き比べ、操作楽譜を使って様々に試す活動が有効であった。この操作楽譜は、自分がつくった音や短い旋律の音カードと他者の音カードと合わせながら反復させたり変化させたりして音楽の仕組みを視覚的に捉えることができたり、自在にカードの位置を張り替えて様々に音楽の仕組みを試し、確かめながら音楽づくりができるというよさがあり有効であった。

各段階で「つくる音楽」を設定したことで、教師は「思いや意図をもつための支援」と「思いや意図を表出するための支援」を明確にすることができた。また、このことは、つかむ段階でつくる音と、あらわす段階でつくる音楽をつなぎ、児童の思いや意図を連続的に発展させながら、「まとまりのある音楽」をつくることにつながった。



## 2 研究の課題

今後も、思いや意図をもって表現する児童の育成をめざし、さらに次のことに取り組んでいきたい。

- 本研究では音楽をつくる場としてはじめは一人で、あらかず段階からはグループで、と教師が設定をした。そしてグループでつくったストーリーの場面の様子が表れるように音楽づくりをしたが、今後は、一人でつくる、二人でつくる、グループでつくるなど、児童の思いや意図をより実現できる活動の場が選択できるための支援を考えていきたい。
- 音を音楽に構成するイの指導内容に重点を置いて研究を進めてきたが、児童の実態として、様々な発想をもって音遊びをしたり、即興的に表現したりする学習経験の充実は欠かすことができない。日常的な音楽づくりの取組とともに、アの指導内容の充実も図っていきたい。
- 音楽づくりにおける評価の第2観点と第3観点の境目があいまいになってしまった。音楽づくりの技能は、児童の活動の中の何を見取ればよいのかははっきりさせる必要がある。また、思いや意図をどのようにもち、表出できたのかについて、グループ全体に対する評価は比較的明確に行うことができるが、児童一人一人に対する評価を、実際の活動の中から見取るのは困難であった。
- 他領域とのバランスやつながりを考え、年間指導計画の中に音楽づくりをどのように位置付けていくかを考えていかなければならない。今回は音楽づくりのみの題材であったが、今後、鑑賞や他の表現領域との関連を図った題材構成の工夫を行っていきたい。

## 引用文献

- 1 文部科学省 小学校学習指導要領解説 音楽編 教育芸術社(平成 20 年)

## 参考文献

- 1 「音楽づくり」成功の授業プラン 今村 央子／酒井 美恵子著 明治図書(平成 24 年)
- 2 サウンド・エデュケーション  
R. マリー・シェーファー著／鳥越けい子他訳 春秋社 (平成 4 年)
- 3 音楽科授業のつくり方 学びの授業づくりシリーズ  
第3部音楽づくり編 第4部鑑賞編 武末正史著 (平成 25 年)
- 4 金本正武・坪能由紀子 小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり 東洋館出版社(平成 20 年)
- 5 打楽器イ・ロ・ハ 小田 もゆる著 教育出版株式会社(2012 年)
- 6 音楽づくりの授業アイデア集 音楽之友社(2012 年)
- 7 高倉弘美 [共通事項]が見える子どもがときめく音楽授業づくり 東洋館出版社(2008 年)
- 8 教育音楽 小学版 音楽之友社
- 9 鑑賞の授業づくりアイデア集 へえ～そうなの！音楽の仕組み 音楽之友社(2009 年)

## 研修員

- 古賀 陽子(西高宮小学校) 裏西 仁(城南小学校)  
橋口 加奈子(鶴田小学校) 前田 若菜(平尾小学校)

## 研究指導者

- 木村 次宏 (福岡教育大学教授)  
振原 直子 (研究支援課主任指導主事)